

佐賀大学美術館

THE SAGA UNIVERSITY ART MUSEUM

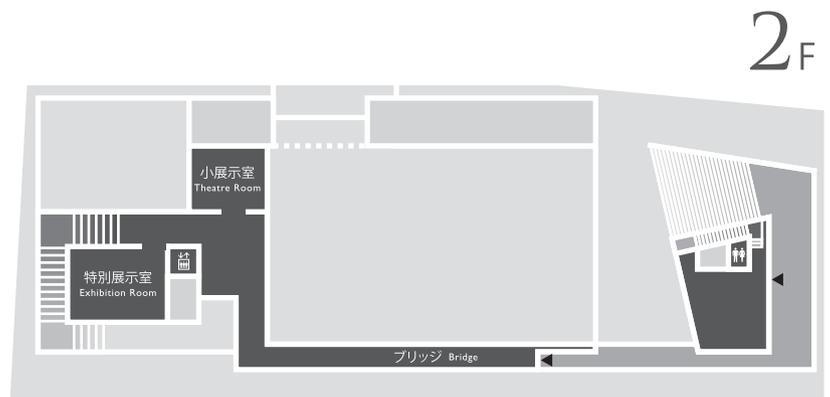
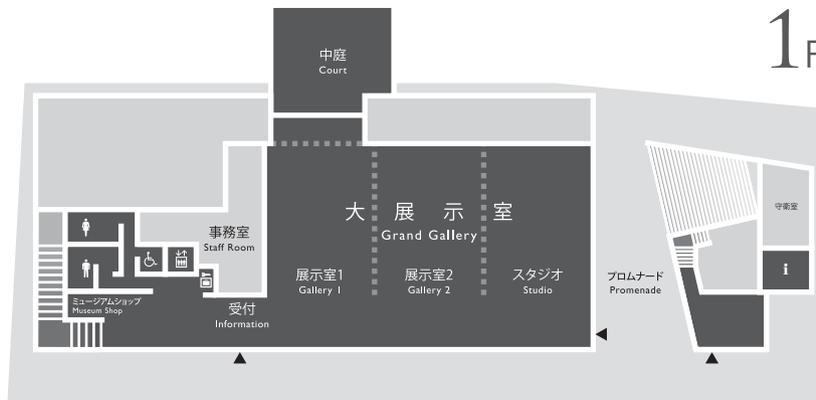
平成27年度 年報 + 紀要  
2015





# 〔館概要〕

名 称	佐賀大学美術館
所 在 地	佐賀市本庄町1番地
基本設計	佐賀大学
実施設計	(株)梓設計九州支社 (協力: (株)ワークヴィジョンズ)
監 理	佐賀大学環境施設部
施 工	(建築) 金子建設(株) (電気) (株)佐電工 (機械) (株)九電工
構 造	鉄骨造・地上2階建
延床面積	1,502㎡
展示面積	462㎡ 展示室1 106㎡ 展示室2 106㎡ スタジオ 111㎡ 特別展示室 48㎡ 小展示室 34㎡ 歴史展示スペース 57㎡
そ の 他	プロムナード 中庭 ブリッジ
設 備	トイレ 多目的トイレ ロッカー
併 設	カフェ



## 〔沿革〕

- 平成23年 1月 4日 学長年頭挨拶で美術館設置計画を発表
- 平成23年 6月 8日 佐賀大学役員会にて美術館設置諮問委員会からの答申書を報告。  
美術館の設置を審議・了承。同時に3WG（設置募金、利用、建設）についても報告
- 平成23年12月20日 美術館基本設計建設コンサルタント選定委員会で基本設計コンサルタント選定
- 平成24年 2月22日 佐賀大学役員会にて基本設計のイメージを説明、募金趣意書の作成を提案・了承
- 平成24年 5月14日 基本設計納入
- 平成24年12月29日 美術館実施設計終了
- 平成25年 2月14日 新営工事起工式
- 平成25年 6月26日 美術館規則、美術館運営委員会規定制定
- 平成25年 8月30日 美術館建設工事竣工
- 平成25年 9月28日 佐賀大学統合10周年記念式典・佐賀大学美術館開館記念式典
- 平成25年10月 2日 一般公開開始
- 平成26年10月24日 入館者 5万人達成
- 平成26年度 第18回佐賀市景観賞受賞
- 平成28年 2月19日 入館者10万人達成

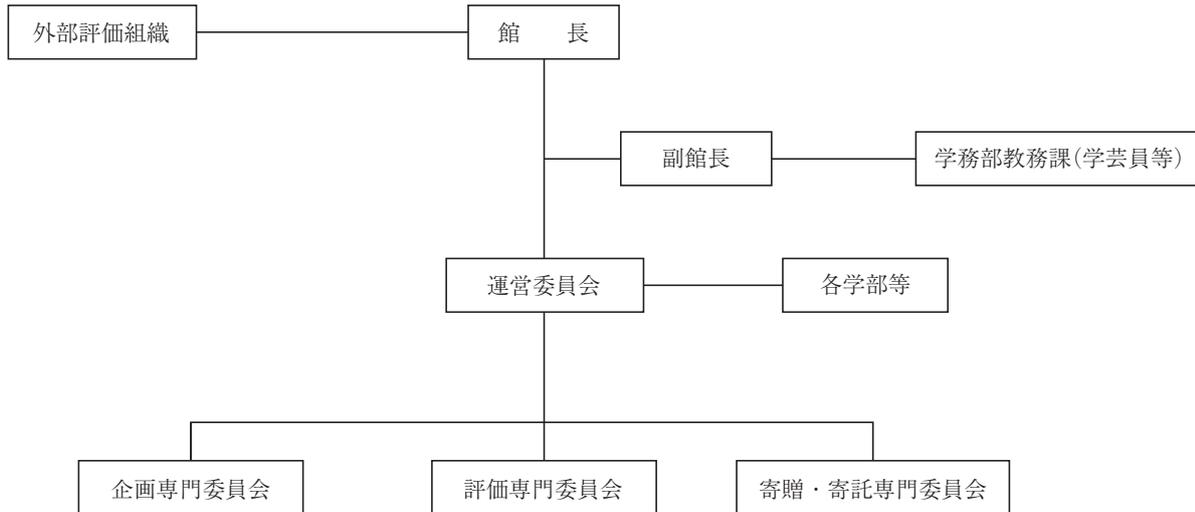
## 〔設立主旨〕

平成25年10月、旧佐賀大学と佐賀医科大学の統合10周年記念事業として佐賀大学美術館は誕生しました。美術館と、併せて整備された正門エリアは、「地域に開かれた大学」という佐賀大学の理念を象徴するものです。美術館は、総合大学である佐賀大学の魅力を多方面に向けて、より多くの人に知っていただくための情報発信源として活用されています。

## 〔活動目的〕

佐賀大学が所有する資料や、美術・工芸に関連する作品を収集・保管・展示するとともに、文化芸術の新しい活動や表現を地域の方々とともに作り上げ、総合大学が生み出すさまざまな研究成果を周知・公開していきます。

〔組織図〕



〔職員〕

館長	宮崎 耕治 (～平成27年9月30日)
	後藤 昌昭 (平成27年10月1日～)
副館長	吉住 磨子 (～平成27年9月30日)
	田中 嘉生 (平成27年10月1日～)
主任(学芸員)	佐々木 奈美子
事務員(再雇用)	西村 彰
事務補佐員(学芸員)	大坪 由季
事務補佐員	井手 麻奈未
事務補佐員(学芸員)	鬼塚 美津子
事務補佐員(学芸員)	藤森 梨衣

平成28年3月31日現在

〔運営委員会委員〕

委員長(館長)	理事	宮崎 耕治 (～平成27年9月30日)
	理事	後藤 昌昭 (平成27年10月1日～)
副委員長(副館長)	教授	吉住 磨子 (～平成27年9月30日)
	教授	田中 嘉生 (平成27年10月1日～)
委員	教授	重藤 輝行 (～平成27年9月30日)
委員	准教授	鬼嶋 淳 (平成27年10月1日～)
委員	教授	中村 博和 (～平成27年9月30日)
委員	教授	平地 一郎 (平成27年10月1日～)
委員	准教授	永松 美雪
委員	准教授	後藤 隆太郎
委員	教授	有馬 進 (～平成27年9月30日)
委員	教授	白武 義治 (平成27年10月1日～)
委員	学務部長	下川 洋司
委員	佐賀大学 同窓会長	金丸 安隆
委員	教授	田中 嘉生 (～平成27年9月30日)
委員	教授	荒木 博申 (平成27年10月1日～)
委員	教授	田中 右紀

平成28年3月31日現在

# 目次

## [年報]

3 ——— 館概要

4 ——— 沿革

5 ——— 組織図

7 ——— 平成27年度の活動

1. 展示記録（主催）
2. 展示記録（企画申請）
3. 実習・研修
4. 刊行・掲載・見学
5. 寄附
6. 入館者一覧表
7. 新収蔵作品
8. 作品修復・作品貸出等

## [紀要]

47 ——— 「花毛氈」、「鍋島緞通」とよばれる木綿の敷物について

—歴史解明のための段階的調査記録—

宮原(上田) 香苗 (元 佐賀県立博物館・美術館 / 佐賀大学美術館 学芸員)

## 〔平成27年度の活動〕

平成27年 3月20日 「染めの系譜— Jo-Ogawa-Tanaka 染色教室三人展」(～5.10)

3月20日 「バンカラ時代の佐賀大学— 昔なつかしキャンパスライフ」(～5.31)

以上、前年度より継続

6月5日 「新収蔵品展— 受け継ぐ絵画」(～6.28)

7月17日 「知られざるメディカルイラストレーションの世界— 描かれたからだの神秘」(～8.23)

7月17日 「村岡平蔵— 瞬間の美」(～11.15)

8月28日 「鍋島緞通 綿—Men—の織りなすハーモニー」(～9.27)

11月1日 公開講座「アートと女性の関係」(1回目/2回目11.14/3回目11.21)

11月25日 市場直次郎コレクションより「花鳥風月に遊ぶ— 近世の絵師と歌人」(～3.13)

12月4日 「音楽のカー リコーダーとヴァイオリンのミニ・コンサート」

平成28年 2月19日 入館者10万人達成

3月21日 「芸術地域デザイン学部開設記念展— 芸術で地域を拓く 芸術で世界を拓く」(～5.8)

3月21日 「久富邦夫(東京)— 太宰と出会った修業時代」(～7.10)

# 1. 展示記録（主催）

## 染めの系譜—Jo-Ogawa-Tanaka 染色教室三人展

### 《展覧会概要》

特設美術科の時代から現在までの染色教室の歴代教員、城秀男、小川泰彦、田中嘉生の屏風を、それぞれの作風の変遷がわかるように紹介。ひな壇を用いた空間を生かす展示の他、各作家の技法などをパネルで解説した。

《会期》平成27（2015）年3月20日（金）～5月10日（日）

《開館日数》46日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ

《資料提供・協力》佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程

《展示構成》染色作品 計25点

《入館者数》3,945名

《広報媒体》チラシ、ポスター、外看板、HP、FB

《配布資料》チラシ、目録

《関連事業》ギャラリートーク（時間はすべて14:00～）

第1回 日時：4月14日（火）

小川泰彦氏（染色家、旧教員）

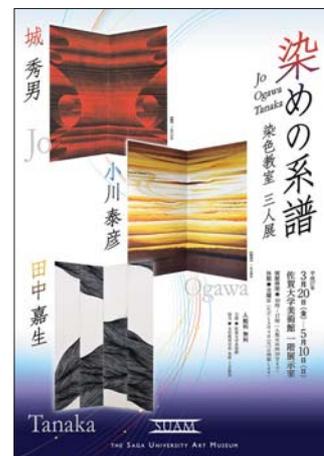
田中嘉生氏（文化教育学部教授）

第2回 日時：4月26日（日）

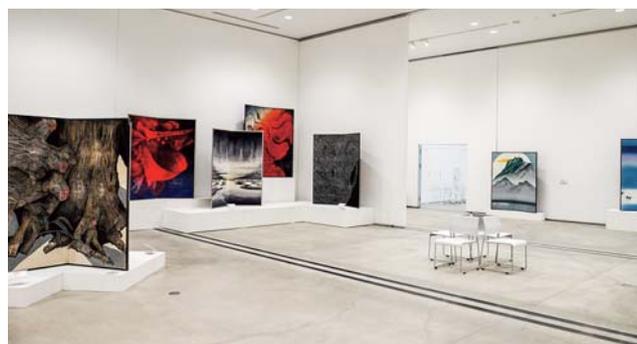
大坪由季（当館学芸員）

第3回 日時：5月2日（土）

田中嘉生氏（同上）



チラシ



オープニング



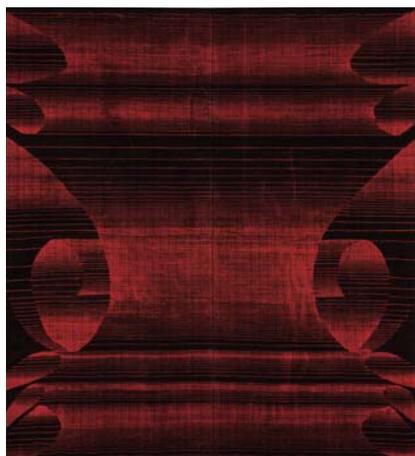
ギャラリートーク1回目



ギャラリートーク2回目

出品リスト

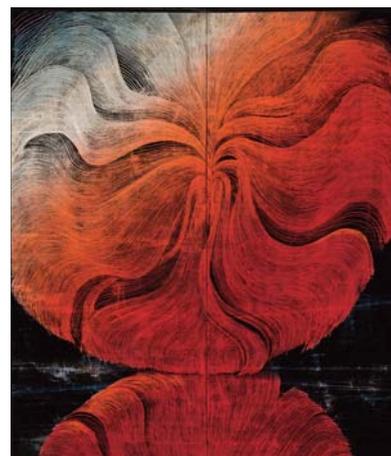
No.	作家名	作品名	数量	制作年	出品歴	所蔵先
1	城 秀男	樹 A	1	1959 (昭和34) 年	第 2 回日展	個人蔵
2	城 秀男	蓮	1	1967 (昭和42) 年	第53回光風会展	個人蔵
3	城 秀男	豊	1	1967 (昭和42) 年	第10回日展 特選	個人蔵
4	城 秀男	妖艶の正体	1	1971 (昭和46) 年	第 3 回日展	個人蔵
5	城 秀男	遙光	1	1973 (昭和48) 年	第 5 回日展	個人蔵
6	城 秀男	妖異な円	1	1974 (昭和49) 年	第 6 回日展 審査員出品	個人蔵
7	城 秀男	二つの構成	1	1976 (昭和51) 年	第62回光風会展 杉浦非水賞	個人蔵
8	城 秀男	樹林 B	1	1978 (昭和53) 年	第10回日展	個人蔵
9	城 秀男	樹魂繁栄	1	1988 (昭和63) 年	第20回日展	個人蔵
10	小川泰彦	深蒼	1	1967 (昭和42) 年	第10回日展	佐賀県立美術館
11	小川泰彦	展望	1	1974 (昭和49) 年	第 6 回日展	個人蔵
12	小川泰彦	不知火の有明	1	1978 (昭和53) 年	第10回日展	個人蔵
13	小川泰彦	明け染めし	1	1988 (昭和63) 年	第20回日展	佐賀県立美術館
14	小川泰彦	さざなみ	1	1992 (平成 4) 年頃か		個人蔵
15	小川泰彦	展望	1	1996 (平成 8) 年	第28回日展	個人蔵
16	小川泰彦	島一つ	1	2001 (平成13) 年	第84回佐賀県美術協会展 (顧問)	個人蔵
17	田中嘉生	解ける	1	1982 (昭和57) 年	第14回日展	個人蔵
18	田中嘉生	夏の風	1	1993 (平成 5) 年	第25回日展	個人蔵
19	田中嘉生	ある日の音	1	1999 (平成11) 年	第31回日展	個人蔵
20	田中嘉生	ある日の空	1	1995 (平成 7) 年	第17回日本新工芸展 会員佳作賞	個人蔵
21	田中嘉生	ある日の線-コソデー	1	2005 (平成17) 年	第27回日本新工芸展 会員佳作賞	個人蔵
22	田中嘉生	ある日	1	2006 (平成18) 年	第28回日本新工芸展	個人蔵
23	田中嘉生	ある日	1	2011 (平成23) 年	第32回九州新工芸展	個人蔵
24	田中嘉生	卯月の頃	1	2013 (平成25) 年	第45回日展	個人蔵
25	田中嘉生	ある日のくわがた	2	1996 (平成 8) 年	第17回九州新工芸展	個人蔵



城秀男《豊》



小川泰彦《不知火の有明》



城秀男《妖異な円》

## バンカラ時代の佐賀大学—昔なつかしキャンパスライフ

### 《展覧会概要》

佐賀大学の前身となった4つの旧制学校ゆかりの資料により、大学の歴史や成り立ちを紹介した展覧会。佐賀大学同窓会が保管している旧制佐賀高校の校章、旗、古い実験器具などを展示した。

《会期》平成27(2015)年3月20日(金)～5月31日(日)

《開館日数》63日間

《会場》特別展示室

《資料提供・協力》佐賀大学菱の実会館、臼杵市教育委員会

《展示構成》旧制佐賀高等学校関連資料 31点

佐賀女子師範学校、佐賀師範学校、卒業アルバム 3点

パネル展示 4点

計38点

《入館者数》2,537名

《広報媒体》チラシ、ポスター、外看板、HP、FB

《配布資料》チラシ、目録



チラシ



出品リスト

No.	展示資料	数量	年	寸法 (cm)	素材	制作	所蔵先
1	旧制佐賀高校の学帽	1		29×25×13	布	ユタカ製帽所 (佐賀市唐人町)	佐賀大学菱の実会館資料
2	同 マント	1		肩幅部分40 着丈110	布		佐賀大学菱の実会館資料
3	同 下駄	1		10×23×8	木、布		佐賀大学菱の実会館資料
4	遥かなり十五畷 (小像)	1	昭和58年	像:19×10×46 台座:22×16×7	像:ブロンズ 台座:木、大理石	山本民二	佐賀大学菱の実会館資料
5	学業成績原簿	1	昭和4年	41.7×2013	紙、インク、鉛筆	旧制佐賀高校	佐賀大学菱の実会館資料
6	不知火寮学習机	1		50×70×36.5	木		佐賀大学菱の実会館資料
7	佐賀高校 校章	1		79×8×85	木製に漆塗り・金箔仕上げ		佐賀大学菱の実会館資料
8	佐賀高校 校旗	1		柄:198 布:90×110	布		佐賀大学菱の実会館資料
9	e/m 測定用ブラウン管	1	大正14年	全長75 底面直径11	ガラス		佐賀大学菱の実会館資料
10	タイプライター	1		37×41×23	鉄	Royal (アメリカ)	佐賀大学菱の実会館資料
11	化学天秤	1		22×42.5×49	木、ガラス、分銅	守谷定吉造 (東京)	佐賀大学菱の実会館資料
12, 13	福田教授愛用の顕微鏡	2		12×10.5×27		E.Leitz Wetzlar (ドイツ)	佐賀大学菱の実会館資料
14	福田教授愛用の顕微鏡	1		12×17×30		E.Leitz Wetzlar (ドイツ)	佐賀大学菱の実会館資料
15, 16	古写真	2	大正13年				佐賀大学菱の実会館資料
17	理三乙物理実験報告	1	昭和12年	16.5×23.1×0.7		旧制佐賀高校	佐賀大学菱の実会館資料
18	物理実験測定法 教科書	1	昭和12年	15.5×22.8×0.7			佐賀大学菱の実会館資料
19	剣道部誌「劔友」第二号	1	昭和2年	21.2×15×0.7			佐賀大学菱の実会館資料
20	剣道部誌「劔友」 福田先生米寿記念特集号	1	昭和53年	21.2×15×0.7			佐賀大学菱の実会館資料
21	剣道部誌「劔友」 福田先生追悼特集号	1	昭和55年	21.2×15×0.7			佐賀大学菱の実会館資料
22	柔道部誌	1	昭和11年	22×1.5×0.7		鶴鳴館活版所 (佐賀市多布施町)	佐賀大学菱の実会館資料
23	弓道部誌「白光」(復刊第一号)	1	昭和57年	21×1.5×0.7		佐賀高 弓友会本部	佐賀大学菱の実会館資料
24, 25	水泳部誌	2	昭和36年	18.4×13.3×0.8		佐高水泳部史刊行会 福博総合印刷	佐賀大学菱の実会館資料
26	文芸部誌「創作集」	1	昭和6年	23×16.3×1.5		第二晴雲堂活版部	佐賀大学菱の実会館資料
27	不知火寮誌「不知火」	1	昭和10年	22×15.2×0.6			佐賀大学菱の実会館資料
28	旧制佐賀高校卒業アルバム	1	大正12年	37×27×3.5			佐賀大学菱の実会館資料
29	旧制佐賀高校卒業アルバム	1	大正13年	32×23×4			佐賀大学菱の実会館資料
30	旧制佐賀高校卒業アルバム	1	大正15年	26×18×1.8			佐賀大学菱の実会館資料
31	旧制佐賀高校卒業アルバム	1	昭和16年	33×24.5×8			佐賀大学菱の実会館資料
32	佐賀女子師範学校卒業アルバム	1	昭和8年				佐賀大学美術館
33	佐賀師範学校卒業アルバム	1	昭和12年				佐賀大学美術館
34	佐賀師範学校卒業アルバム	1	昭和16年				佐賀大学美術館
35	佐賀大学 航空写真(本庄) 20130909	1	平成25年				佐賀大学美術館
36	臼杵市教育委員会 旧制佐賀高校 関連写真 航空写真/20-06	1					臼杵市教育委員会 (旧藩主稲葉家関係史料)
37	臼杵市教育委員会 旧制佐賀高校 関連写真 十五畷橋/20-1-21	1					臼杵市教育委員会 (旧藩主稲葉家関係史料)
38	臼杵市教育委員会 旧制佐賀高校 関連写真 十五畷橋/20-1-22	1					臼杵市教育委員会 (旧藩主稲葉家関係史料)

## 新収蔵品展—受け継ぐ絵画

### 《展覧会概要》

平成26年度に寄贈を受けた絵画をまとめて紹介した当館初の収蔵品展。本学で洋画、日本画を最初に教えた石本秀雄、藤田隆治の作品・資料、旧佐賀商工会館から一括寄贈された県ゆかりの作家による絵画や資料を全館を使って展示した。

《会期》平成27(2015)年6月5日(金)～6月28日(日)

《開館日数》21日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、特別展示室、小展示室

《展示構成》石本秀雄、藤田隆治の絵画および関連資料 11点  
旧財団法人佐賀商工会館 ご寄贈の絵画 23点 計34点

《入館者数》1,743名

《広報媒体》チラシ、ポスター、外看板、HP、FB

《配布資料》チラシ、目録

《関連事業》担当学芸員によるギャラリートーク

日時：6月13日(土)、20(土)、27(土) 14:00～

### 鑑賞会

「知られざるメダリスト～画家・藤田隆治の生涯」

(1996年、九州朝日放送製作)

日時：6月16日(火) 15:00～16:30

対象：日本画を学ぶ学生ほか



チラシ



ギャラリートーク

## 出品リスト

### 第1章 石本秀雄

No.	作品名	作者	制作年	寸法 (cm)	素材	寄贈者	備考
1	トード	石本秀雄	1966 (昭和41) 年	130.1×97	油彩・カンヴァス	岡田章子氏	第32回東光展
2	オーバーの女	石本秀雄	1960 (昭和35) 年	145.2×97.3	油彩・カンヴァス	岡田章子氏	第26回東光展
3	自画像	石本秀雄	1929 (昭和4) 年	45.4×37.8	油彩・カンヴァス	岡田章子氏	
4	パリのモデル	石本秀雄	1964 (昭和39) 年頃	44.7×30.6	コンテ・紙	岡田章子氏	
5	スケッチブック	石本秀雄	1928 (昭和3) ~ 1931 (昭和6) 年頃	18.6×12.8× 2.3	紙・鉛筆、 一部水彩	岡田章子氏	
6	自筆ノート (西洋美術史)	石本秀雄	1949 (昭和24) ~	25.8×18.2	紙・鉛筆	岡田章子氏	
7	自筆ノート (講演)	石本秀雄	1949 (昭和24) ~	25.8×18.2	紙・鉛筆	岡田章子氏	
8	手鏡の女	石本秀雄	1963 (昭和38) 年	25.9×18.3	鉛筆・紙 (印刷物裏面)	金子 剛氏	
9	橙と桌上的静物	石本秀雄	1963 (昭和38) 年	25.9×18	鉛筆・紙 (印刷物裏面)	金子 剛氏	
10	画室にて (参考出品)	石本秀雄	1951 (昭和26) 年	162.8×130.6	油彩・カンヴァス		第17回東光展

### 第2章 佐賀商工会館

11	鯉	立石春美		51.5×57.3 (本紙)	絹本着色	(財) 佐賀商工会館	
12	銀杏並木秋景	井手誠一	1958 (昭和33) 年	37.8×45.6	油彩・カンヴァス	(財) 佐賀商工会館	
13	麦秋	久富邦夫		45.5×37.9	油彩・カンヴァス	(財) 佐賀商工会館	
14	呼子 (初秋)	久富邦夫	1956 (昭和31) 年	24.3×33.3	油彩・カンヴァス ボード	(財) 佐賀商工会館	
15	燈火小閑	宮地 亨	1965 (昭和40) 年	145.5×97	油彩・カンヴァス	(財) 佐賀商工会館	
16	壱岐	宮地 亨		24.2×33	油彩・カンヴァス ボード (板か)	(財) 佐賀商工会館	
17	あじさい	古瀬虎麓		41.1×32.1	油彩・カンヴァス	(財) 佐賀商工会館	
18	ユーカリ樹のある庭	若林景光	1955 (昭和30) 年	38.1×45.6	油彩・カンヴァス	(財) 佐賀商工会館	
19	川上の風景	若林景光	1966 (昭和41) 年	53×45.6	油彩・カンヴァス	(財) 佐賀商工会館	
20	商工会館	若林景光	1957 (昭和32) 年	53.5×65.3	油彩・カンヴァス	(財) 佐賀商工会館	
21	阿蘇早春	手島 貢		45.7×60.5	油彩・カンヴァス	(財) 佐賀商工会館	
22	バラゲアイの農家	小野正人	1962 (昭和37) 年	33.6×45.7	油彩・カンヴァス	(財) 佐賀商工会館	
23	金盞花	小野正人	1960 (昭和35) 年	40.9×31.8	油彩・カンヴァス	(財) 佐賀商工会館	
24	岩と波海原	上杉耕次	1940 (昭和15) 年	33.3×45.6	油彩・カンヴァス	(財) 佐賀商工会館	
25	カンナの花	石本秀雄		45.4×37.6	油彩・カンヴァス	(財) 佐賀商工会館	
26	夏の果物	村岡平蔵		37.8×45.6	油彩・カンヴァス	(財) 佐賀商工会館	
27	西熱海	村岡平蔵		31.9×40.9	油彩・カンヴァス	(財) 佐賀商工会館	
28	新緑	村岡平蔵	1963 (昭和38) 年	53×45.7	油彩・カンヴァス	(財) 佐賀商工会館	
29	雲仙	納富 進		72.7×91.1	油彩・カンヴァス	(財) 佐賀商工会館	
30	夏の岬	納富 進		37.8×45.5	油彩・カンヴァス	(財) 佐賀商工会館	
31	本栖高原	北島兵一	1959 (昭和34) 年	37.9×45.5	油彩・カンヴァス	(財) 佐賀商工会館	
32	古湯雄渾	田中宗一	1961 (昭和36) 年	34×46	水彩・紙	(財) 佐賀商工会館	
33	牛	下川都一郎		31.8×40.4	油彩・カンヴァス	(財) 佐賀商工会館	

### 第3章 藤田隆治

34	五ひき	藤田隆治	1961 (昭和36) 年頃	96.3×159.3	紙本着色	中牟田家	
参考 映像	オリンピア (民族の祭典・美の祭典) 監督: レニ・リーフェンシュタール		1938年				コスミック出版 DVD

## 知られざるメディカルイラストレーションの世界—描かれたからだの神秘

### 《展覧会概要》

体内の様子や病巣、治療の手順などのイラストは医学の発達に寄与してきたが、今日また様々な医療シーンで、「人の手」を通すからこそ写真ではできない表現が可能なメディカルイラストレーションの真価が見直されている。本展は国内の美術館で初めての紹介展として、国内外で活躍する作家22名が参集。アートと医学にまたがる領域をとりあげた、総合大学の美術館ならではの展示となった。

《会期》平成27(2015)年7月17日(金)～8月23日(日)

《開館日数》30日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ

《主催》日本メディカルイラストレーション学会設立準備委員会/佐賀大学美術館

《資料提供・協力》佐賀大学地域学歴史文化研究センター

《展示構成》デザイン 102点

資料(「解体新書」複製本) 1点

サンプル(臓器モデル) 7点 計110点

出品作家:津田佳彦、鹿山育美、菅徳子、佐藤良孝、三浦正幸、川本満、今崎和広、金井裕也、内田博子、レオン佐久間、末次文祥、磯和さやか、本庄和範、大桑あずさ、野村憲司、栗林樹奈、森皆ねじ子、よしとみあさみ、横田ヒロミツ、河本萌、貝原拓磨、明石道昭(順不同)

上映映像:「メディカルイラストレーター レオン佐久間氏へのインタビュー」(約16分)

「メディカルイラストの指導者 横田ヒロミツ氏へのインタビュー」(約16分)

「レオン佐久間氏によるイラストレーション実演」(約16分)

《入館者数》4,390人

《広報媒体》チラシ、ポスター、外看板、HP、FB

《配布資料》チラシ、パンフレット

《関連事業》講演会

第1回 日時:7月18日(土)14:00～

講師:明石道昭氏

演題:「医療現場で見えた、命のかたちの美しさ」

第2回 日程:8月9日(日)

時間:10:00～11:00 講師:レオン佐久間氏

演題:「メディカルイラストレーションの現在・過去・未来」

時間:11:00～12:00 講師:佐藤良孝氏

演題:「メディカルイラストレーション、制作の実態」

ワークショップ

「からだの中を描いてみよう!」

第1回 日時:8月1日(土)14:00～

講師:明石道昭氏

第2回 日時:8月9日(日)14:00～

講師:津田佳彦氏、明石道昭氏



チラシ



講演会



ワークショップ

## 村岡平蔵展—瞬間の美

### 《展覧会概要》

小城市生まれ、日展、光風会展などで活躍した洋画家・村岡平蔵。本展では、平成24年に本学に遺族から寄贈された人物画と、若い時期の静物画、風景画を紹介した。展示室には、画家の言葉を作品と並べて随所に配し、女性美を追求した村岡の芸術に迫った。

《会期》平成27（2015）年7月17日（金）～11月15日（日）

《開館日数》101日間

《会場》特別展示室

《展示構成》絵画 7点

資料（雑誌）1点 計8点

《入館者数》6,209名

《広報媒体》チラシ、外看板、HP、FB

《配布資料》チラシ、目録

《関連事業》担当学芸員によるギャラリートーク

日時：7月29日（水）18:00～

11月7日（土）14:00～



チラシ



ギャラリートーク

出品リスト

静物

No.	作品	制作年	寸法 (cm)	素材	出品歴
1	ストーブと灰皿	1952 (昭和27) 年	116.5×91.3	油彩・カンヴァス	第38回 光風会展
2	夏の果物	不明	37.8×45.6	油彩・カンヴァス	

人物

3	多摩	1948 (昭和23) 年	116.5×91.3	油彩・カンヴァス	
4	若いからだ	昭和50年代	50.2×73.2	油彩・カンヴァス	
5	夏の日に	1982 (昭和57) 年	145.5×97.7	油彩・カンヴァス	第14回 日展
6	かがみ	1984 (昭和59) 年	145.6×97.3	油彩・カンヴァス	第70回 光風会展

風景

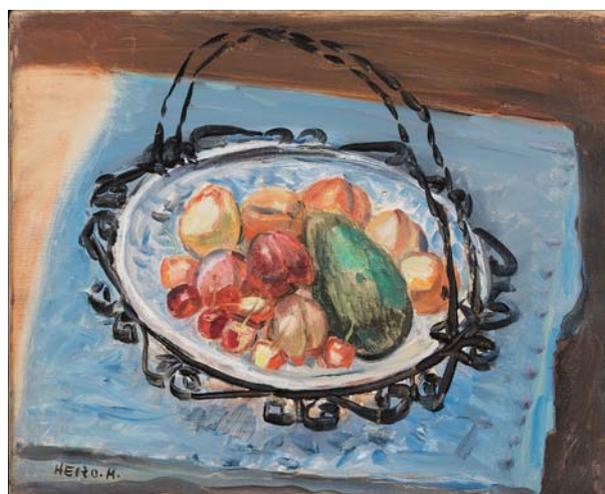
7	西熱海	不明	31.9×40.9	油彩・カンヴァス	
---	-----	----	-----------	----------	--

資料

8	美術雑誌アトリエ No. 366 女の描き方	1957 (昭和32) 年			
---	---------------------------	---------------	--	--	--



村岡平蔵《かがみ》



村岡平蔵《夏の果物》

## 鍋島緞通 綿-Men-の織りなすハーモニー

### 《展覧会概要》

佐賀藩主の庇護のもと、藩士たちの手で織られた鍋島緞通。典型例である「蟹牡丹文」の作例の江戸から昭和までの変遷や、同じ木綿の敷物である赤穂緞通や堺緞通との比較、図案や素材の綿の紹介などにより鍋島緞通の特徴をわかりやすく示した。

会期中、展示室では市内の織工房の協力で実際に緞通の製作が行われ、また、本展出品作の所蔵館学芸員や緞通研究者による講演、ワークショップなど様々な関係者からの協力のもと緞通の魅力を多彩に紹介することができた。

《会期》平成27(2015)年8月28日(金)～9月27日(日)

《開館日数》27日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ

《協力》佐賀県立美術館 / (株) 織ものがたり

《資料提供》<sup>ちやのき</sup> 苜木もめん / 苗運寺 / 佐賀県医療センター好生館

《展示構成》鍋島緞通16件19枚

堺緞通 2件 3枚 赤穂緞通 2件 4枚

鍋島緞通図案集 1点 鍋島緞通織機 1点 計22件(内緞通20件26枚)

《入館者数》2,866人

《広報媒体》チラシ、ポスター、外看板、HP、FB

《配布資料》チラシ、目録つきワークシート

《関連事業》講演会

第1回 日時：8月29日(土) 14:00～

講師：上田(宮原)香苗氏(元 佐賀県立博物館・美術館 / 佐賀大学美術館 学芸員)

演題：「緞通の由緒と魅力—25年の調査成果から」

第2回 日時：9月5日(土) 14:00～

講師：川副麻理子氏(佐賀県立博物館・美術館学芸員)

演題：「佐賀の地理と歴史から読み解く鍋島緞通」

ワークショップ

「緞通ワークショップ よりよ体験！」 参加人数 34名

日時：9月19日(土) 13:00～

講師：木下真氏((株) 織ものがたり)

担当学芸員によるギャラリートーク

日時：9月6日(日)、13日(日)、20日(日)、27日(日) いずれも14:00～

9月2日(水)、16日(水) いずれも18:00～



チラシ



絹通製作実演



オープニング



ワークショップ



講演会

出品リスト

	作品名	規格等	制作年	寸法 (cm)	素材	所蔵先
1	鍋島緞通 蟹牡丹文 緑二重雷文	一畳物片房 1枚	江戸～明治前期	171.7×88.7	木綿 手織り	佐賀県立美術館
2	鍋島緞通 蟹牡丹文 緑二重雷文	一畳物片房 1枚	明治前～中期	193×92.2	木綿 手織り	佐賀県立美術館
3	鍋島緞通 蟹牡丹文 緑二重雷文	一畳物片房 2枚	明治中～後期	193.5×91.6 187×90.8	木綿 手織り	佐賀県立美術館
4	鍋島緞通 蟹牡丹文 緑二重雷文	一畳物片房 1枚	明治後期～大正	188×92	木綿 手織り	佐賀県立美術館
5	鍋島緞通 蟹牡丹唐草文 緑二重雷文	一畳物片房 1枚	大正時代	178.5×95.8	木綿 手織り	佐賀県立美術館
6	鍋島緞通 蟹牡丹雲形文 緑卍繁文	三畳半物両房 1枚	昭和12～13年	246×241	木綿 手織り	佐賀県立美術館
7	鍋島緞通 蟹牡丹文 (有)吉島敷物製作	一畳物片房 1枚	昭和35 (1960) 年頃	185×96	木綿 手織り	佐賀県立美術館
8	赤穂緞通 蟹牡丹文 緑二重雷文	一畳物房なし 2枚	昭和前期	185.3×91.8 184×92.4	木綿 手織り	佐賀県立美術館
9	堺緞通 蔓蟹牡丹文	一畳物房なし 2枚	昭和前期	186.5×87.3 186.8×91.0	木綿 手織り	佐賀県立美術館
10	鍋島緞通 花唐草花文 緑二重雷文	二畳物片房 2枚	明治前期	357.1×91.2 359.6×91.6	木綿 手織り	佐賀県立美術館
11	鍋島緞通 兜牡丹文 緑二重雷文	一畳物片房 1枚	明治前期	181.9×92.6	木綿 手織り	佐賀県立美術館
12	鍋島緞通 花杏葉文 緑二重雷文	二畳物片房 2枚中1枚	明治中～後期	364×91	木綿 手織り	佐賀県立美術館
13	鍋島緞通 芍薬に唐花文 緑二重雷文	一畳物片房 1枚	明治中～後期	190.5×93.5	木綿 手織り	佐賀県立美術館
14	鍋島緞通 蟹牡丹文 緑七宝繁小雷文	一畳物片房 1枚	明治後～大正	185.0×92.5	木綿 手織り	佐賀県立美術館
15	鍋島緞通 蔓牡丹唐草文 緑卍繁文	一畳物房カット 1枚	大正時代	186.7×94	木綿 手織り	佐賀県立美術館
16	鍋島緞通 亀甲に蝶花文 緑雷文にねじり文	一畳物片房 1枚	大正時代	179.5×93.5	木綿 手織り	佐賀県立美術館
17	鍋島緞通 蝶に七宝樹文 緑卍繁文	一畳物片房 1枚	大正時代	181.8×95.7	木綿 手織り	佐賀県立美術館
18	赤穂緞通 市松に菊十字文	一畳物房なし 2枚	昭和前期	183.8×89.0 190.3×89.6	木綿 手織り	佐賀県立美術館
19	堺緞通 市松に菊十字文 緑花菱繁文	一畳物房なし 1枚	昭和前期	188.0×92.0 189.5×91.5	木綿 手織り	佐賀県立美術館
20	鍋島緞通 図案集 (佐賀・厚生舎)	紙本着色	明治中期～大正	36.5×21.5etc.	木綿 手織り	佐賀県立美術館
21	鍋島緞通 「鍋島緞通」字文 (田中洋子氏による)		平成5 (1993) 年	187×95.2	木綿 手織り	佐賀県立美術館
22	機(はた)実物					(株)織ものがたり
資料	和綿・洋綿の実物 綿繰り機等道具					萱木もめん
パネル	鍋島緞通碑拓本		明治17 (1884) 年			佐賀・苗運寺
パネル	種痘の図	秀島成忠・筆	昭和3 (1928) 年			佐賀県医療センター好生館

## 佐賀大学公開講座「アートと女性の関係」

### 《事業概要》

文化教育学部の複数の研究室が分野をまたいで行ってきた公開講座。初回は吉住磨子教授（美術史）、2回目は宮地歌織特任助教（文化人類学）、最終回は後藤正英准教授（倫理学）が「アートと女性の関係」というテーマで講座を開いた。

《会期》平成27（2015）年11月1日（日）、14日（土）、21日（土）

《開館日数》3日間

《会場》佐賀大学美術館 スタジオ ほか

《主催》佐賀大学文化教育学部（欧米文化研究室 / 美術理論・美術史研究室）

《共催》佐賀大学美術館 / 男女共同参画推進室

### 《内容》

第1回 ローマの路地裏にて一周縁者たちの美術史—

講師：吉住磨子氏（文化教育学部教授 / 男女共同参画推進室室長）

日時：11月1日（日）14:00～15:30

会場：佐賀大学美術館 スタジオ

第2回 ケニアの民芸品『ソープ・ストーン』をめぐる女性たちの生活

講師：宮地歌織氏（男女共同参画推進室特任助教）

日時：11月14日（土）14:00～15:30

会場：佐賀大学文化教育学部4号館 2階401教室

第3回 ドイツロマン主義に見る恋愛と芸術

講師：後藤正英氏（文化教育学部准教授）

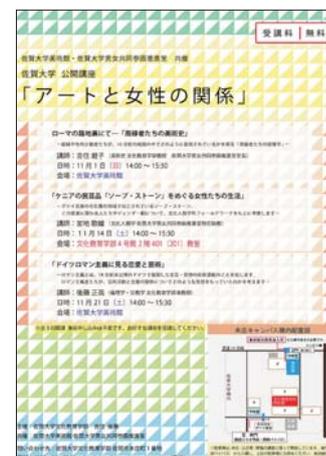
日時：11月21日（土）14:00～15:30

会場：佐賀大学美術館 スタジオ

《入館者数》第1回:38人 / 第2回:21人 / 第3回:33人

《広報媒体》チラシ、ポスター、HP、FB

《配布資料》各会レジュメ



チラシ



第1回



第2回



第3回

## 市場直次郎コレクションより 花鳥風月に遊ぶ—近世の絵師と歌人—

### 《展覧会概要》

佐賀大学附属図書館の所蔵する市場直次郎コレクションは日本及び中国文人の書画類約1230点、和書類約670冊を誇る。本展ではその中から与謝蕪村や狩野派・円山派等の扇面、伊藤若冲や谷文晁の掛軸、与謝野晶子の色紙など、花鳥風月を題材とした31点を展示し、近世の絵師と歌人の世界を紹介した。

《会期》平成27(2015)年11月25日(水)～平成28(2016)年3月13日(日)

《開館日数》87日間

《会場》特別展示室

《展示構成》扇面17点 掛軸3点 色紙5点  
めくり2点 額装2点 典籍2点 計31点

《入館者数》4,226名

《広報媒体》チラシ、ポスター、外看板、HP、FB

《配布資料》チラシ、目録

《関連事業》担当学芸員によるギャラリートーク

日時：12月12日(土)、2月13日(土) 14:00～



チラシ



ギャラリートーク

出品リスト

No.	作家	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・形状
1	与謝蕪村	水辺樹林図	安永 8 (1779) 年	天地19.5 上弦27.2 下弦16.7	紙本墨画・扇面
2	与謝蕪村	水辺樹林図	江戸時代中期	縦15.4 横14.4	紙本墨書
3	紀 梅亭	鹿図	江戸時代中期～後期	天地17.9 上弦45.5 下弦15.7	紙本墨画淡彩・扇面
4	長沢蘆雪 (長沢芦雪)	澆墨松島図	江戸時代中期	天地17.6 上弦50.6 下弦21.9	紙本墨画・扇面
5	山口素絢	菊図	江戸時代中期～後期	天地15.3 上弦43.1 下弦21.4	紙本淡彩・扇面
6	池 大雅	秋色晴山図	江戸時代中期	縦19.7 横26.8	紙本墨書・掛軸
7	池 大雅	大雅堂画譜 天	享和 3 (1803) 年序刊	縦18.0 横12.0	
8	池 大雅	大雅堂画譜 地	享和 3 (1803) 年序刊	縦18.0 横12.0	
9	池 玉蘭	墨梅図	江戸時代中期	天地17.1 上弦43.2 下弦19.5	紙本墨画・扇面
10	円山応震	花卉図	江戸時代後期	天地19.1 上弦51.0 下弦20.0	紙本着色・扇面
11	大西椿年	鶴図	江戸時代後期	天地17.2 上弦44.4 下弦20.2	紙本墨画・扇面
12	大岡雲峰	葡萄図	江戸時代後期 ※弘化 2 (1845) 年	天地14.5 上弦47.6 下弦24.2	紙本墨画淡彩・扇面
13	高久露厓	墨竹図	江戸時代後期	天地15.7 上弦50.6 下弦24.8	紙本墨画・扇面
14	酒井道一	山水図	明治時代以降	天地13.4 上弦44.1 下弦22.0	紙本墨画・扇面
15	住吉派	貴人吹奏図		天地18.2 上弦50.0 下弦20.6	紙本着色・扇面
16	狩野永納	鉄線図	江戸時代初期	天地18.0 上弦51.4 下弦23.5	紙本着色・扇面
17	狩野周信	水仙図	江戸時代中期	天地18.2 上弦28.8 下弦21.7	紙本淡彩・扇面
18	狩野永岳	馬図	江戸時代後期	天地17.7 上弦49.2 下弦22.3	紙本墨画・扇面
19	英 一蝶	大石内蔵助行楽の図	江戸時代初期～中期	天地13.0 上弦43.4 下弦19.2	紙本木版手彩色・扇面
20	土佐光貞	亀図	江戸時代中期～後期	天地18.2 上弦49.8 下弦20.1	紙本墨画淡彩・扇面
21	土佐光孚	牡丹図	江戸時代後期	天地18.0 上弦45.5 下弦19.5	紙本淡彩・扇面
22	伊藤若冲	鯉魚図	江戸時代中期	掛幅装縦78.1 横28.7 巾47.0	紙本墨書・掛軸
23	谷 文晁 松村景文	太湖石・椿図	江戸時代後期	掛幅装縦122.5 横55.3 巾76.0	紙本墨書・掛軸
24	酒井抱一 亀田鵬齋	墨竹図	江戸時代後期	掛幅装縦33.6 横33.8 巾47.5 (42.0)	紙本墨画淡彩・掛軸
25	谷 文晁 翠雲女 大窪詩仏	蝶と梅	江戸時代後期	額装縦58.8 横25.7 外寸縦72.0 横38.3	紙本墨画・額装
26	鈴木其一	芥子図	江戸時代後期	縦23.5 横18.9	紙本着色・色紙
27	上田秋成	上田秋成祝歌 (※「無腸」祝歌)	※文化 3 (1806) 年	縦14.7 横14.7 額外寸縦26.2 横24.2	絹本朱色金泥若松模様・色紙
28	折口信夫	和歌	明治時代以降	縦21.1 横18.0	紙本墨書・色紙
29	柳原白蓮	和歌	明治時代以降	縦27.2 横24.3	紙本墨書・色紙
30	与謝野晶子	和歌	明治時代以降	縦27.0 横24.0	金地・色紙
31	与謝野寛	和歌	明治時代以降	縦27.2 横24.1	色紙

## 音楽のカーリコーダーとヴァイオリンのミニ・コンサート

### 《事業概要》

音楽の持つ癒しの力をテーマに、展示室内でバロック音楽との演奏会を行った。

ヴァイオリニストが奏でるアマティの深い音色、様々な大きさのリコーダーによる透き通るような旋律のほか、「音楽の力」にまつわる体験談や楽器の形や歴史などについて語られる夕べとなった。

《日時》平成27(2015)年12月4日(金) 16:15~17:00

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2

《協力》麻の会

《内容》出演者：太田光子(リコーダー)、三上亮(ヴァイオリン)

杉浦道子(チェンバロ) ※お話のみ

曲 目：リコーダーとヴァイオリンのためのデュエット(G.Ph. テレマン)

「無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ」より(J.S. バッハ)

「笛の楽園」より(J.van エイク) ほか

《入館者数》45人

《広報媒体》チラシ、ポスター、HP、FB

《配布資料》プログラム



## 2. 展示記録（企画申請）

### 四季の写真・文集展

佐賀医科大学の元学長である山口雅也氏が長く雑誌に掲載してきた写真と文集を紹介。九州をはじめ、京都・奈良など各地で撮影された、四季のうつろいをとらえた風景写真23点が展示された。

《会期》平成27（2015）年4月10日（金）～4月23日（木）  
《開館日数》12日間 《会場》小展示室  
《主催》四季の写真・文集展実行委員会



### 小城鍋島文庫に見る小城鍋島藩と島原の乱

佐賀大学と旧小城町（現小城市）の交流協定に基づき、2004年から毎年行われている小城地域の歴史に関する企画展のプレイバック企画。本展では、2004年の展示を再構成し、江戸時代に起こった島原の乱における佐賀藩や小城藩の動きを紹介した。

《会期》平成27（2015）年5月13日（水）～5月31日（日）  
《開館日数》17日間 《会場》小展示室  
《主催》佐賀大学地域学歴史文化研究センター



## 第6回 A DOMANI 展

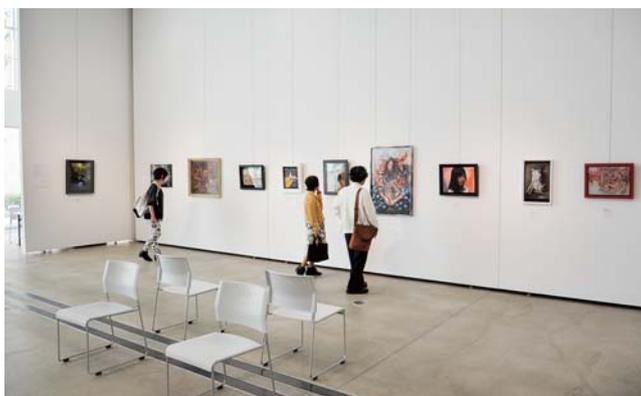
本学で西洋画を専攻する学生によるグループ展。「芸術地域デザイン学部」への改組を控え区切りの回として、今回は教員、卒業生とともに油絵、アクリル、水彩絵具等様々な技法で描かれた作品が一堂に会することとなった。

《会期》平成27(2015)年5月16日(土)～5月31日(日)

《開館日数》14日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2

《主催》佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程(西洋画教室)



## 第40回 佐賀県書作家協会展

複数の団体が合同で開催する、佐賀県内最大の書道展。初めて佐賀県立博物館との同時開催で行われ、当館では県内の同協会の会員、準会員による198点が展示された。

《会期》平成27(2015)年7月7日(火)～7月12日(日)

《開館日数》6日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室

《主催》佐賀県書作家協会/佐賀県立美術館



## 佐賀錦 New Generations 展

学内プロジェクト研究所として平成26年秋から開講した「佐賀錦講座」を受講する学生らが制作したバッグや眼鏡ケース、アクセサリ、漆芸教室とのコラボ作品などを紹介した。

《会期》平成27(2015)年10月7日(水)～10月18日(日)

《開館日数》11日間 《会場》小展示室

《主催》佐賀大学佐賀錦研究所

《関連事業》ギャラリートーク

日時：10月14日(水) 16:10～17:00

講師：小形由美子氏(日本工芸会正会員)



## 世界一周写真展

世界を旅する2人の写真家、T&H Photographyによる写真展。アメリカ、ヨーロッパ、北欧、アジア諸国など世界35か国で撮影した約130点の作品を展示。会期中には旅と写真の魅力を語るトークイベントが、映像を交えて行われた。

《会期》平成27(2015)年10月7日(水)～10月18日(日)

《開館日数》11日間 《会場》ギャラリー1

《主催》T&H Photography

《関連事業》トークイベント

日時：10月7日(水) 15:00～

講師：中川剛志氏、水田秀樹氏



## 共に創る。佐賀大学デザイン思考研究所

学内プロジェクト研究所により、人への共感や洞察を深め、社会課題の解決やイノベーションに結び付ける「デザイン思考」の基礎を学ぶワークショップや、学生グループの研究発表が行われた。

《会期》平成27(2015)年10月9日(金)～11日(日)  
《開館日数》3日間 《会場》ギャラリー2、スタジオ  
《主催》佐賀大学デザイン思考研究所



## 第31回 佐賀県児童生徒・木工工作コンクール入選・入賞作品展

佐賀県内の小中学生が創意工夫を凝らして作り上げた木工作品の展示会。小学校低学年の部、小学校高学年の部、中学生の部と、全部で3部門に応募された約800点の中から、入選・入賞を果たしたものを展示した。

《会期》平成27(2015)年10月18日(日)～10月30日(金)  
《開館日数》11日間 《会場》1階スタジオ  
《主催》佐賀県木材青壮年会  
《協賛》損保ジャパン日本興亜(株) / (株) ウッドワン



## 平成27年度 JA 共済小・中学生第51回書道・第41回交通安全ポスターコンクール

JA 共済が文化支援事業として毎年実施している小・中学生を対象とした全国規模のコンクールの入賞作品展。当館では、入賞・入選した県内の子供たちの書道、ポスターが展示された。

《会期》平成27(2015)年10月23日(金)～11月3日(火・祝)  
《開館日数》10日間 《会場》ギャラリー1、ギャラリー2  
《主催》農業協同組合/全国共済農業協同組合連合会佐賀県本部



## はちみつ展

佐賀の高校生と、東日本大震災を経験した東北の高校生との「交流」をテーマに企画された展覧会。最終日には、実際に東北へ訪問した時の報告やグループディスカッションが行われた。

《会期》平成27(2015)年10月24日(土)～11月1日(日)  
《開館日数》8日間 《会場》小展示室  
《主催》はちみつ展実行委員会



## 第57回 総合展

美術・工芸課程の3年生を中心に運営される、伝統ある学生による総合美術展。大学美術館での開催は、今回が3回目。専攻の枠を越えた様々な作品が館内に並び、学生と教員による講評会も一般に公開された。大学祭の2日間は、美術館前で工芸品の出店も行った。



《会期》平成27(2015)年11月6日(金)～11月15日(日)

《開館日数》9日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室

《主催》佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程(第57回総合展実行委員会)



## 第4回 佐賀大学コンテンツデザインコンテスト

映像や静止画、アプリケーションなどのコンテストの入選作品の展示と、その中から優秀作品を決める公開審査、授賞式などが行われた。作品の制作者によるプレゼンテーションや、多彩なゲストによるトークイベントが行われた。

《会期》平成27(2015)年11月25日(水)～11月29日(日)

《開館日数》5日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室

《主催》佐賀大学/佐賀大学地域環境コンテンツデザイン研究所

《協力》C-revo in Saga/6者協定(佐賀県・佐賀県市長会・佐賀県町村会・佐賀県商工会議所連合会・佐賀県商工会連合会・佐賀大学)



## 第6回 璞友会展

佐賀県内で水墨画や書を学んでいる「璞友会」が定期的に行っている展覧会で、指導者を含めた約30人による、68点の書作、水墨画が展示された。



《会期》平成27(2015)年12月8日(火)～12月13日(日)  
《開館日数》6日間 《会場》ギャラリー1、ギャラリー2  
《主催》璞友会



## つくリウム～アートでうみだす水族館～

展示会場を巨大水槽に見立て、塩化ビニールに来館者が魚の絵などを描き壁に貼ってゆく体験型展示。週末には本学学生が滞在し、来館した子供たちと一緒にワークショップを行った。



《会期》平成27(2015)年12月11日(金)～12月20日(日)  
《開館日数》9日間 《会場》スタジオ  
《主催》佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程(西洋画教室)



### 佐賀大学ひと・もの作り肥前陶磁研究所 研究報告展

学内プロジェクト研究所、肥前陶磁研究所のこれまでの成果発表として、唐津焼の作家38名による約140点の作品が展示された。来館者は床に敷かれた段ボールの上で、実際に作品を手にとりながら鑑賞した。

《会期》平成28(2016)年1月6日(水)～1月11日(月・祝)  
《開館日数》6日間 《会場》スタジオ  
《主催》佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程(窯芸教室ひと・もの作り肥前陶磁研究所)



### 第31回 佐賀県高等学校美術教師作品展 第5回 佐賀県高等学校美術科授業生徒作品展「これが高校美術だ!」

高校美術における成果を広く一般に発表し、高校で美術を学ぶ意義を伝えることを目的として佐賀県の美術教員30名による作品34点と、県内13校から生徒が制作した作品16点を発表した。

《会期》平成28(2016)年1月19日(火)～1月24日(日)  
《開館日数》6日間  
《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ  
《主催》佐賀県高等学校教育研究会 芸術部会 美術部会



## 制作の現場—小木曾 誠とみらいの創造者たち

本学で西洋画を教える教員が、自らの少年時代の絵から現在まで「プロセス」を通して「制作の現場」を伝えようとした展覧会。展示室には学生の授業作品などを含め約200点が並び、会期中にはワークショップやギャラリートークも開催された。



《会期》平成28(2016)年2月3日(水)～2月14日(日)  
《開館日数》11日間  
《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ  
《主催》佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程(西洋画教室)



## 第十七回卒業書作展

例年この時期に開催される、本学で書道を学ぶ学生による卒業書作展。卒業生3名の作品を中心に、本年は指導してきた教員や在校生の作品など19点が、美術館2階のスペースに展示された。



《会期》平成28(2016)年2月9日(火)～2月14日(日)  
《開館日数》6日間 《会場》小展示室  
《主催》佐賀大学文化教育学部学校教育課程(教科教育専修国語(書写)教育分野)



第60回 佐賀大学文化教育学部美術・工芸 卒業制作展  
第22回 教育学研究科美術 修了制作展

美術・工芸課程の卒業生、大学院教育学研究科の修了生による卒業・修了制作展。卒制展は今年で60回目となる。大学生活の集大成となる41名、約60点の作品を、美術館全体に展示した。

《会期》平成28(2016)年2月19日(金)～2月28日(日)

《開館日数》9日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室

《主催》佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程/佐賀大学大学院教育学研究科 教科教育専攻美術教育専修



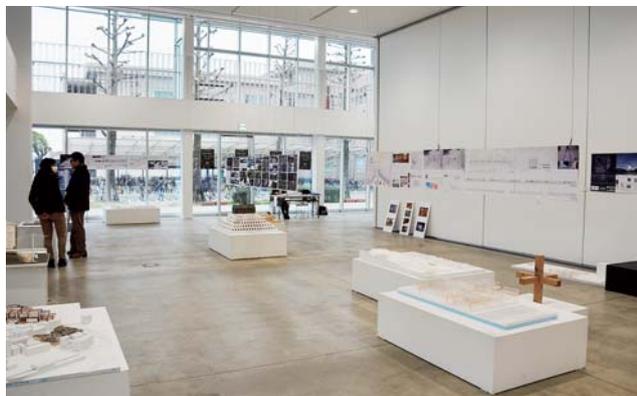
佐賀大学大学院都市工学専攻・理工学部都市工学科 修士制作・卒業制作展

佐賀大学理工学部都市工学科で学んだ学部4年生と大学院2年生の集大成である卒業制作・修士制作展。社会に潜む問題を提起し、新たな建築を提案した。5回目となる本年度は卒業制作13作品と修士制作2作品を展示した。

《会期》平成28(2016)年3月9日(水)～3月13日(日)

《開館日数》5日間 《会場》スタジオ

《主催》佐賀大学大学院工学系研究科 都市工学専攻/佐賀大学理工学部 都市工学科



## 佐賀大学デジタル表現技術者養成プログラム第6期生修了作品展「電腦芸術展」

佐賀大学で「デジタル表現技術者養成プログラム」を受講した学生による修了作品展。アニメーションやドキュメンタリー、プロジェクションマッピングなど多彩な作品が並んだ。

《会期》平成28(2016)年3月10日(木)～3月13日(日)

《開館日数》4日間

《会場》ギャラリー1、ギャラリー2、小展示室

《主催》佐賀大学e-ラーニングスタジオ



## 〔プロムナード使用〕

### 佐賀大学アカペラサークル「Score!! (スコア)」によるアカペラライブ

#### 《事業概要》

学生サークルが昼休みに新入生勧誘のためのミニライブを3日間行った。

《日時》平成27(2015)年4月15日(水)～4月17日(金)  
12:00～12:30頃

《主催》佐賀大学アカペラサークル「Score!! (スコア)」



### 佐賀大学管弦楽団によるプロムナード・ミニコンサート

#### 《事業概要》

4月26日の第38回スプリングコンサートに向けてのプレ・コンサート。団員により、ラデッキー行進曲、ホールニューワールド、イエスタデ

イ・ワンス・モアなどが演奏された。

《日時》平成27(2015)年4月23日(木) 12:20～12:50

《主催》佐賀大学管弦楽団

### ドイツを代表するデザイナー ステファン・ディーツ講演会

#### 《事業概要》

2016年の有田焼創業400年を前に行われた講演会。

講師にドイツの代表的なプロダクトデザイナー、ステファン・ディーツ、ファシリテーターに佐賀県有田焼創業400事業「2016/project」クリエイティブディレクターを務める柳原照弘を招き、セッション形式で、

制作時の思考プロセスや仕事に対する姿勢が語られた。

《日時》平成27(2015)年10月25日(日) 14:00～16:00

《主催》佐賀県有田焼創業400事業実行委員会

《共催》佐賀大学文化教育学部



### 3. 実習・研修

#### キュレーター 1 日体験

《内容》翌年に控えた芸術地域デザイン学部の開設に向けて、高校生を対象に学芸員の仕事を体験するイベントが行われ、美術館でも参加者を受け入れた。当日はバックヤードを案内後、学芸員の仕事やその意義について説明し、質問に答えた。

《期間》平成27 (2015) 年 8 月11日 (火)、8 月29日 (土)

《主催》芸術地域デザイン学部設置準備室

《参加者》8 月11日：20名 / 8 月29日：6 名



#### 監視・受付実習

《内容》学芸員資格取得希望者による博物館実習の学内実習を受け入れた。1、2 年生の実習生が、当館主催の「新収藏品展」「知られざるメディカルイラストレーションの世界」「村岡平蔵展」「鍋島緞通展」において、1 人 7 時間の監視及び受付業務にあたった。

実習生は毎時間、担当時間中の出来事や気づきをレポートで提出し、美術館職員がコメントを返す形で質問に答えた。

《期間》平成27 (2015) 年 6 月 9 日 (火)～9 月13日 (日) 説明会：5 月10日 (日)

《参加者》34名



## 照明実習

《内容》学内実習を受けている2年生の中から、希望者に対して照度に関する実習を行った。

学芸員から照明の意味や作品保存の観点からの推奨照度などについての説明を行い、その後グループに分かれて館内各場所の照度を計測し、記録した。

後半はグループごとに用意された作品を用い、2階小展示室で実際にライティングの作業を体験した。

《期間》平成27(2015)年9月11日(金)10:00~12:00

《参加者》5名



## 〔職員の館外調査研究・研修等〕

佐々木奈美子

日時：平成27年6月6日

場所：東京家政学院大学

目的：日本ミュージアム・マネジメント学会第20回記念大会発表  
「多様化する社会とミュージアムー組織のマネージメント」

佐々木奈美子

日時：平成27年11月22日

場所：小郡市文化会館

目的：野田宇太郎文学資料館特別企画展  
「野田宇太郎の美術散歩」記念講演会

大坪由季

日時：平成27年7月20日~24日

場所：国立国際美術館

目的：平成27年度独立行政法人国立美術館  
キュレーター研修

大坪由季

日時：平成27年12月12日

場所：九州産業大学

目的：平成27年度博物館実習報告会

## 4. 刊行・掲載・見学

### 〔刊行物〕

「佐賀大学美術館 平成26年度年報/紀要」

《概要》年報：館概要/沿革/組織図/平成26年度の活動

紀要：展覧会「石本秀雄のアトリエ」—室内画の展開と美術教育の理念

佐々木奈美子（当館学芸員）

《仕様》AB版64ページ 4色刷

《発行部数》500部

《発行日》平成28年3月25日



### 〔掲載誌〕

MOTEMOTE さが5月号 vol. 58 「染めの系譜 染色教室三人展」	佐賀新聞文化センター	平成27年5月1日発行
ぶらぶら美術・博物館 プレミアムアートブック 2015-2016号「美術館情報」	(株) KADOKAWA	平成27年5月12日発行
福岡 Walker2015年10月号 「鍋島緞通 綿-Men-の織りなすハーモニー」	(株) KADOKAWA	平成27年9月19日発行
OUR PRODUCTS2015-2016 納入事例集-博物館・美術館- 「美術館情報」	(株) 金剛	平成27年11月発行
JMMA 日本ミュージアム・マネージメント学会 会報 通巻第76号 (vol. 20-3)	日本ミュージアム・マネージメント学会	平成27年12月31日発行
福岡 Walker2016年4月号 「美術館情報」	(株) KADOKAWA	平成28年3月19日発行

〔掲載紙・テレビ・ラジオ〕 ※平成27年度は総数で新聞等130件、TV・ラジオ31件が掲載・放送された。  
※本頁は館主催事業についての報道のみ抜粋。

- ・展覧会情報 染めの系譜（3月20日、3月28日、4月28日、4月30日 佐賀新聞）
- ・展覧会情報 バンカラ時代の佐賀大学（3月20日、5月29日 佐賀新聞）
- ・三者三様 深遠な世界（3月27日 佐賀新聞）
- ・記者日記 80歳を超えて（3月28日 佐賀新聞）
- ・佐賀のひと バンカラ時代 思いはせて（3月20日 西日本新聞）
- ・染色教室 指導3人の作品展（4月3日 読売新聞）
- ・ニュース「歴代教授3人の染色作品展」（4月4日 NHK）
- ・バンカラな服 佐賀大の心意気 前身4校の資料展（4月6日 朝日新聞）
- ・ニュース「バンカラ時代の佐賀大学」（4月10日 NHK、4月19日 NHK）
- ・往時の学生の姿伝える バンカラ時代の佐賀大学展（4月21日 佐賀新聞）
- ・ニュース「バンカラ時代の佐賀大学」（5月4日 サガテレビ）
- ・染めの系譜（2015年5月中旬 ぶんぶんテレビ）
- ・バンカラ時代の佐賀大学（5月中旬 ぶんぶんテレビ）
- ・ニュース「新収蔵品展—受け継ぐ絵画」（6月5日 NHK）
- ・ニュース「新収蔵品展—受け継ぐ絵画」（6月13日 サガテレビ）
- ・個性きらめく佐賀ゆかりの17人 人物、静物、風景…多彩に（6月23日 佐賀新聞）
- ・新収蔵品展—受け継ぐ絵画（6月28日 佐賀新聞）
- ・展覧会情報 知られざるメディカルイラストレーションの世界（6月30日、7月17日、8月22日 佐賀新聞）
- ・ニュース「小城市出身の村岡平蔵展」（7月17日 NHK）
- ・人体の神秘に肉薄 佐賀大学美術館でメディカルイラストレーション展（7月28日 佐賀新聞）
- ・ニュース「体の構造“イラスト”で 国内初 佐賀市で展示会」（8月6日 サガテレビ）
- ・瞬間の美求めて 村岡平蔵展（8月7日 佐賀新聞）
- ・佐賀大でメディカルイラストレーション展（8月8日 朝日新聞）
- ・ニュース「高校生が学芸員の仕事体験」（8月11日 NHK）
- ・記者解説「メディカルイラストレーター 人体を簡素化して図解」（8月13日 佐賀新聞）
- ・佐賀大学1日体験教室、キュレーターの仕事知って（8月14日 佐賀新聞）
- ・日本初メディカルイラスト展 佐賀大美術館で（8月20日 九州医事新報）
- ・タウンたうん：洋画家・村岡平蔵「瞬間の美」展（8月28日 佐賀新聞）
- ・鍋島緞通 綿-Men-の織りなすハーモニー（8月28日 佐賀新聞）
- ・鍋島緞通展（8月29日 西日本新聞）
- ・ニュース「鍋島緞通展」（8月30日 NHK）
- ・佐賀のひと 佐々木奈美子さん「鍋島緞通」奥深い魅力（8月31日 西日本新聞）
- ・ニュース「鍋島緞通」（9月4日 サガテレビ）
- ・木綿と藩士が織りなす伝統美 佐賀大学美術館で鍋島緞通展（9月8日 佐賀新聞）
- ・タウンたうん：色鮮やかな鍋島緞通26点展示（9月11日 毎日新聞）
- ・佐賀大学、新学部設置 佐賀の未来づくりに貢献を（10月1日 佐賀新聞）
- ・街なか通信 村岡平蔵展（10月14日 ぶんぶんテレビ）
- ・きらめく女性美追求 小城市出身 裸婦像の画家、村岡平蔵（10月15日 西日本新聞）
- ・イベント情報 佐賀大学公開講座「アートと女性の関係」（10月30日、11月12日 佐賀新聞）
- ・村岡平蔵—瞬間の美（11月12日 西日本新聞）
- ・展覧会情報 花鳥風月に遊ぶ—近世の絵師と歌人（11月26日、12月26日、12月29日、1月29日、2月26日、3月13日 佐賀新聞）
- ・展覧会情報 花鳥風月に遊ぶ—近世の絵師と歌人（12月10日、12月17日、1月14日、1月21日、1月28日、2月4日、2月11日、2月18日 朝日新聞）
- ・まちかどカレンダー（11月29日 佐賀新聞）
- ・華麗で優雅 午後のバロックをあなたに（11月30日 佐賀新聞）
- ・文化アート 有名作家の貴重な作品展示 市場氏コレクション（12月3日 西日本新聞）
- ・佐賀大学美術館で「花鳥風月に遊ぶ」展（12月11日 佐賀新聞）
- ・地域とともに発展し続ける佐賀大学—新学部開設による知（地）の拠点の強化に向けて—（1月18日 佐賀新聞）
- ・ニュース「花鳥風月に遊ぶ—近世の絵師と歌人—」（2月9日 サガテレビ）
- ・ニュース「佐賀大学美術館 入館者10万人達成」（2月19日 サガテレビ、2月20日 NHK）
- ・佐賀大学美術館 入館者10万人達成（2月20日 佐賀新聞）
- ・佐賀大学美術館が入館者10万人突破 亀川さん夫妻に記念品（2月22日 西日本新聞）
- ・佐賀大学美術館 入館者10万人に（2月22日 毎日新聞）
- ・展覧会情報 久富邦夫<東京>—太宰と出会う修業時代（2月26日、3月21日、3月27日、3月29日 佐賀新聞）
- ・美術館・博物館巡り「花鳥風月に遊ぶ—近世の絵師と歌人」（3月7日 西日本新聞）
- ・芸術地域デザイン学部開設記念展～芸術で地域を拓く・芸術で世界を拓く（3月29日 佐賀新聞）

〔見学団体一覧〕 ※事前連絡および申告にて把握できた団体名称および人数。  
 ※参加者数に引率者を含む。

期日	団体名	人数
4月15日	「大学入門科目」受講者	17
4月16日	「インターフェース科目」受講者	8
4月21日	スリランカ国立ペラデニア大学	11
4月22日	「芸術創造Ⅱ」受講者	16
4月25日	「大学入門科目」受講者	65
5月19日	医療法人山のサナーレ・クリニック	17
5月22日	「西洋画」受講者	16
6月18日	福岡県立糸島高等学校 2年生	68
6月18日	福岡県立筑前高等学校	55
6月20日	学校法人佐賀龍谷学園龍谷高等学校 1年生	80
6月23日	熊本県立熊本商業高等学校	14
6月26日	佐賀県立金立特別支援学校 中学部	9
6月26日	「大学入門科目」受講者	14
7月8日	「楷書法」受講者	31
7月9日	学校法人川島学園福岡舞鶴高等学校	73
7月22日	長崎県立大村高等学校	56
7月23日	佐賀県ベンチャー交流ネットワーク	13
7月29日	新採用職員研修	11
7月29日	福岡県立早良高等学校 1-2年生	64
7月31日	多久市立中央中学校	14
8月1日	上海交通大学	12
8月11日	キュレーター一日体験教室参加者	20
8月27日	「博物館教育論」受講者	14
9月9日	九州地区係長研修	65
9月11日	特別養護老人ホームシオンの園 デイサービス水ヶ江	10
9月21日	デイサービスセンター杏の樹	13
9月29日	福岡県立古賀竟成館高等学校	15
10月1日	佐賀県立白石高等学校 PTA	28
10月4日	佐賀大学理工学部同窓会	17
10月7日	福岡県立武蔵台高等学校 PTA	76
10月7日	長崎県立長崎北高等学校 2年生	74
10月8日	福岡県立香椎高等学校 PTA	29

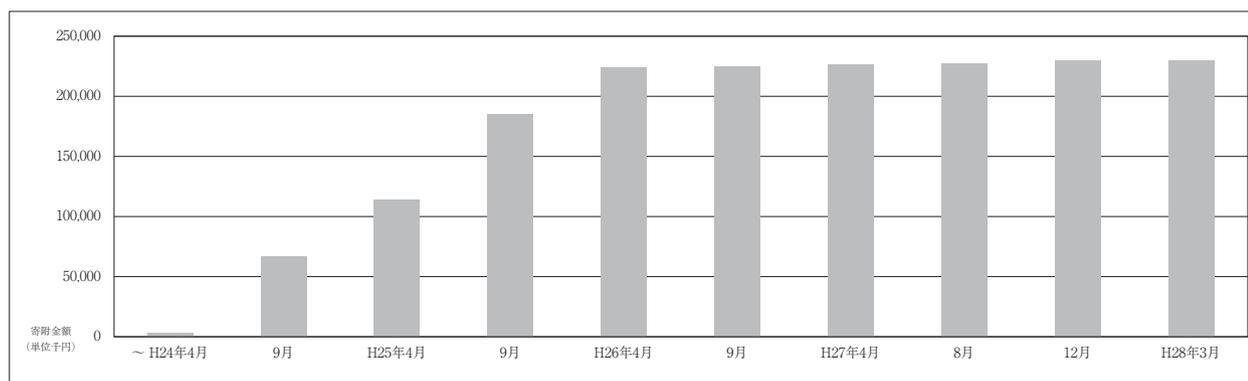
期日	団体名	人数
10月9日	福岡県立八女農業高等学校 PTA	21
10月15日	佐賀県立佐賀東高等学校 PTA	22
10月21日	佐賀県立佐賀商業高等学校 2年生	40
10月22日	福岡県立武蔵台高等学校 2年生	32
10月22日	千葉県立大多喜高等学校	41
10月23日	久留米市立南筑高等学校 2年生	57
10月27日	福岡県立新宮高等学校 1年生	42
10月28日	インドネシア SMA LABschool CIBUBUR	20
10月28日	福岡県立柏陵高等学校 2年生	39
11月10日	学校法人佐賀理容美容専門学校 アイ・ビー ビューティカレッジ	13
11月11日	唐津市 成和公民館	25
11月11日	NHK 文化センター北九州教室 「美術館めぐり」	24
11月11日	学校法人旭学園佐賀女子短期大学附属 佐賀女子高等学校	43
11月14日	ホームカミングデー	68
11月14日	佐賀市立城東中学校	17
12月2日	熊本県立八代高等学校 2年生	74
12月15日	「レクリエーション概論」受講者	10
12月18日	インドネシア宗教省およびインドネシア商社「トリトラ」社長	16
12月19日	佐賀市・久米島町中学生交流事業 参加者	46
1月7日	佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程 学生	23
1月17日	有朋会佐賀市西部支部会	12
1月22日	韓国 江南大学デザイン学部 学生	18
1月29日	NPO 法人地球市民の会 (上海大学・釜山大学)	65
2月10日	学校法人旭学園佐賀女子短期大学附属 佐賀女子高等学校	42
2月23日	白石町立六角小学校 6年生	25
3月12日	芸術地域デザイン学部 1年生 Aクラス	29

平成27年4月15日～平成28年3月12日

## 5. 寄附

### [美術館設置募金の経緯]

- 平成23年 6月 美術館設置募金 WG 設置
- 平成24年 4月 美術館設置事業募金開始
- 平成25年 6月 寄附者芳名帳を公開
- 平成25年 6月 美術館規則の制定に伴い、美術館設置募金 WG を解散
- 平成25年 9月 美術館に高額寄附者銘板を設置
- 平成25年10月 美術館開館後も美術館設置事業募金を継続
- 平成28年 3月 募金総額229,344,276円(平成28年 3月31日現在)



## 6. 入館者一覧表

### [事業別入館者一覧]

※数値に重複あり

展覧会	入場者数	会期	日数	主催	展示会場
染めの系譜 - Jo-Ogawa-Tanaka 染色教室三人展	3945	3月20日 - 5月10日	46	佐賀大学美術館	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
パンカラ時代の佐賀大学 - 昔なつかしキャンパスライフ	2537	3月20日 - 5月31日	63	佐賀大学美術館	特別展示室 ※観覧者実数
四季の写真・文集展	1326	4月10日 - 4月23日	12	四季の写真・文集展実行委員会	小展示室
小城鍋島文庫に見る小城鍋島藩と島原の乱	1950	5月13日 - 5月31日	17	佐賀大学地域学歴史文化研究センター	小展示室
第6回 A DOMANI 展		5月16日 - 5月31日	14	佐賀大学文化教育学部美術・ 工芸課程(西洋画教室)	ギャラリー1、ギャラリー2
新収蔵品展 - 受け継ぐ絵画	1743	6月5日 - 6月28日	21	佐賀大学美術館	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、 小展示室
第40回 佐賀県書作家協会展	1260	7月7日 - 7月12日	6	佐賀県書作家協会/佐賀県立 美術館	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、 小展示室
知られざるメディカルイラストレーションの世界 - 描かれたからだの神秘	4390	7月17日 - 8月23日	30	日本メディカルイラストレーション 学会設立準備委員会/佐賀大 学美術館	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
村岡平蔵 - 瞬間の美	6209	7月17日 - 11月15日	101	佐賀大学美術館	特別展示室 ※観覧者実数
鍋島緞通 綿 - Men - の織りなすハーモニー 世界一周写真展	2866	8月28日 - 9月27日	27	佐賀大学美術館	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
佐賀錦 New Generations 展	3365	10月7日 - 10月18日	11	T&H Photography	ギャラリー1
共に創る。佐賀大学デザイン思考研究所		10月9日 - 10月11日	3	佐賀大学デザイン思考研究所	小展示室 スタジオ
第31回佐賀県児童生徒・木工工作コンクール 入選・入賞作品展	3318	10月18日 - 10月31日	12	佐賀県木材青壮年会	スタジオ
平成27年度 JA 共済小・中学生 第51回書道・第41回交通安全ポスターコンクール はちみつ展		10月23日 - 11月3日	10	農業協同組合/全国共済農業 協同組合連合会佐賀県本部	ギャラリー1、ギャラリー2
		10月24日 - 11月1日	8	はちみつ展実行委員会	小展示室
佐賀大学公開講座「アートと女性の関係」	92	11月1日、11月14日、 11月21日	3	佐賀大学文化教育学部	スタジオ ほか ※参加者実数
第57回 総合展	2894	11月6日 - 11月15日	9	佐賀大学文化教育学部美術・ 工芸課程	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、 中庭、小展示室
第4回 佐賀大学コンテンツデザインコンテスト	1244	11月25日 - 11月29日	5	佐賀大学/佐賀大学地域環境 コンテンツデザイン研究所	ギャラリー1、ギャラリー3、スタジオ、 小展示室
市場直次郎コレクションより 花鳥風月に遊ぶ - 近世の絵師と歌人	4226	11月25日 - 3月13日	87	佐賀大学美術館	特別展示室 ※観覧者実数
音楽の力 - リコーダーとヴァイオリンのミニ・コンサート	45	12月4日	1	佐賀大学美術館/麻の会	ギャラリー1、ギャラリー2 ※参加者実数
第6回 璞友会展	1530	12月8日 - 12月13日	6	璞友会	ギャラリー1、ギャラリー2
つくりウム〜アートでうみだす水族館〜		12月11日 - 12月20日	9	佐賀大学文化教育学部美術・ 工芸課程(西洋画教室)	スタジオ
佐賀大学ひと・もの作り肥前陶磁研究所 研究報告展	659	1月6日 - 1月11日	6	佐賀大学文化教育学部美術工 芸課程(窯芸教室ひと・もの作 り肥前陶磁研究所)	スタジオ
第31回 佐賀県高等学校美術教師作品展 第5回 「これが高校美術だ!」生徒作品展	658	1月19日 - 1月24日	6	佐賀県高等学校教育委員会研 究会芸術部会美術部会	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
制作の現場 - 小木曾誠とみらいの創造者たち	2338	2月3日 - 2月14日	11	佐賀大学文化教育学部美術・ 工芸課程(西洋画教室)	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
第十七回 卒業書作展		2月9日 - 2月14日	6	佐賀大学文化教育学部学校教 育課程教科教育専修 国語 (書写)分野	小展示室
第60回文化教育学部美術・工芸課程 卒業制作展 第22回教育学研究科美術 修了制作展	2732	2月19日 - 2月28日	9	佐賀大学文化教育学部/佐賀 大学大学院教育学研究科	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、 小展示室
工学系研究科都市工学専攻・理工学部都市工学 科 修了制作・卒業制作展	1198	3月9日 - 3月13日	5	佐賀大学大学院工学系研究科 都市工学専攻/佐賀大学理工 学部都市工学科	スタジオ
佐賀大学デジタル表現者養成プログラム 第6期生修了作品展「脳脳芸術展」		3月10日 - 3月13日	4	佐賀大学 e-ラーニングスタジオ	ギャラリー1、ギャラリー2、小展示 室

平成27年3月20日～平成28年3月13日

### [年度別入場者実績]

※数値に重複なし

	総入館者数	うち有料入館者数	開館日数
平成25年度	27167	0	125
平成26年度	40780	2652	254
平成27年度	37965	0	278

平成25年10月2日～平成28年3月31日

## 7. 新収蔵作品

平成27年度に佐賀大学の所蔵となった物品の内、佐賀大学美術館が保管もしくは管理する作品。

収蔵年	作家名	作家名_E	作品名	作品名_E
2015	城 秀男	JO, Hideo	豊	Fertility
2015	城 秀男	JO, Hideo	妖異な円	Weird Circle
2015	小川泰彦	OGAWA, Yasuhiko	不知火の有明	Misterious lights on the sea, Ariake
2015	村岡平蔵	MURAOKA, Heizo	若いからだ	Young Body
2015	村岡平蔵	MURAOKA, Heizo	多摩	Tama
2015	村岡平蔵	MURAOKA, Heizo	かがみ	Mirror
2015	村岡平蔵	MURAOKA, Heizo	ストーブと灰皿	Stove and Ashtray
2015	村岡平蔵	MURAOKA, Heizo	夏の日	On Summer Day
2015	岩永京吉	IWANAGA, Kyokichi	裸婦	Nude
2015	瀧 一夫	TAKI, Kazuo	萌黄釉角壺	Square Vase with Light Yellowish Green Glaze
2015	瀧 一夫	TAKI, Kazuo	伊羅保壺	Warty Vase
2015	瀧 一夫	TAKI, Kazuo	緑釉壺	Vase with Green Glaze
2015	豊田勝秋	TOYOTA, Katsuaki	鑄銅瓶(糸目)	Casting Copper Bottle (Itome)
2015	古賀忠雄	KOGA, Tadao	男の顔	Face of the man
2015	古賀忠雄	KOGA, Tadao	男の顔	Face of the man
2015	山本民二	YAMAMOTO, Tamiji	暦年	Year after year
2015	山本民二	YAMAMOTO, Tamiji	無題	Untitled
2015	安永良徳	YASUNAGA, Yoshinori	人物	Person Figure
2015	深草廣平	FUKAKUSA, Kohei	入り江の教会(天草、崎津風景)	Church facing the Cove (Landscape of Sakitsu, Amakusa)
2015	深草廣平	FUKAKUSA, Kohei	婦人像	Woman
2015	海老原喜之助	EBIHARA, Kinosuke	本を焼く人	Book Burning Man
2015	海老原喜之助	EBIHARA, Kinosuke	蝶(空の蝶)	Butterfly
2015	海老原喜之助	EBIHARA, Kinosuke	記念碑的像	Monumental Image
2015	海老原喜之助	EBIHARA, Kinosuke	人物	Person
2015	海老原喜之助	EBIHARA, Kinosuke	衣を与う	Give the Clothes
2015	石本秀雄	ISHIMOTO, Hideo	画室にて	At Atelier
2015	岡田三郎助	OKADA, Sabrousuke	若き娘の顔	Face of the young woman
2015	斉藤与里	SAITO, Yori	婦人像	Woman
2015	辻 永	TSUJI, Hisashi	須磨初秋	Suma in early Autumn
2015	中西利雄	NAKANISHI, Toshio	H嬢像	Portrait of Miss H.
2015	藤島武二	FUJISHIMA, Takeji	台湾娘	Taiwan Girl

分類	制作年(和暦)	制作年(西暦)	寸法(cm)	素材	出品歴	寄贈者
工芸(染色)	昭和42	1967	144×81	染色	第10回日展 特選	堀 直子氏
工芸(染色)	昭和49	1974	185×160	染色	改組第6回日展	堀 直子氏
工芸(染色)	昭和53	1978	170×140	染色	改組第10回日展	小川泰彦氏
西洋画	昭和50年代	1975-1984	50.2×73.2	油彩・カンヴァス		事務局より管理替
西洋画	昭和23	1948	116.8×91.3	油彩・カンヴァス		事務局より管理替
西洋画	昭和59	1984	145.6×97.3	油彩・カンヴァス	第70回光風会展	事務局より管理替
西洋画	昭和27	1952	116.5×91.3	油彩・カンヴァス	第38回光風会展	事務局より管理替
西洋画	昭和57	1982	145.5×97.7	油彩・カンヴァス	第14回日展	事務局より管理替
日本画	昭和38	1963	136×90	紙本着色(岩絵具・紙)		文化教育学部より管理替
工芸(窯芸)	昭和42	1967	30×24×24	陶器		文化教育学部より管理替
工芸(窯芸)			37×25	陶器		文化教育学部より管理替
工芸(窯芸)			30×27×27	陶器		文化教育学部より管理替
工芸(金工)	昭和41	1966	32.7×24.3	鍍金	第9回日展	文化教育学部より管理替
彫刻	昭和22-23年頃	1947-1948年頃	H66×W22×D29	ブロンズ		文化教育学部より管理替
彫刻			H70.4×W22.6×D27.7	石膏		文化教育学部より管理替
彫刻			H117.5×W43×D26.7	石膏		文化教育学部より管理替
彫刻(レリーフ)	昭和54	1979	W40×D26.1×H46.5	樹脂		文化教育学部より管理替
彫刻			D9×H30×W9.7	ブロンズ		文化教育学部より管理替
西洋画	昭和55	1980	130.5×162.5	油彩・カンヴァス		文化教育学部より管理替
西洋画	平成1	1989	162×130.5	油彩・カンヴァス		文化教育学部より管理替
版画(リトグラフ)	昭和31	1956	57.2×38.8 (本紙64.1×45.4)	版画(リトグラフ・紙)		文化教育学部より管理替
版画(リトグラフ)	昭和31	1956	55×37.2 (本紙64.1×45.4)	版画(リトグラフ・紙)		文化教育学部より管理替
版画(リトグラフ)	昭和31	1956	54.7×37.6 (本紙64×45.2)	版画(リトグラフ・紙)		文化教育学部より管理替
素描			58.5×49	紙・ペン		文化教育学部より管理替
西洋画	昭和31	1956	80×64.8	油彩・カンヴァス	第2回現代美術展	文化教育学部より管理替
西洋画	昭和26	1951	162.8×130.6	油彩・カンヴァス	第17回東光会	文化教育学部より管理替
西洋画	大正02	1913	42.4×34.4	油彩・カンヴァス	第2回光風会展	文化教育学部より管理替
西洋画			90.5×64.5	油彩・カンヴァス		文化教育学部より管理替
西洋画			41.3×53.2	油彩・カンヴァス		文化教育学部より管理替
西洋画(水彩)	昭和18	1943	60.4×48.2	水彩・紙		文化教育学部より管理替
西洋画			40.9×31.5	油彩・カンヴァス		文化教育学部より管理替

## 8. 作品修復・作品貸出等

### 作品修復

対象作品：石本秀雄「トレド（午後のトレド）」  
村岡平蔵「ストーブと灰皿（ストーブ）」

修復作業期間：平成27年12月11日（金）、平成28年1月19日（火）～23日（土）

委託先：絵画修復 たけのした工房

### 作業内容

#### \* 作業前の状態

- ・画面の絵の具層は油分が失われて、接着力がなくなり、亀裂・剥離・層間剥離・剥落が全面に現れている。

#### \* 保存修復処置内容

- ・画面の絵の具層の亀裂・剥離・層間剥離・剥落箇所に膠水を数回注入し、固着。
- ・絵の具層の剥落箇所の充填、成形。
- ・表面、裏面の殺菌、防黴処置。
- ・側面部分の張り調整のための補強。

### 燻蒸

作品：新収蔵作品・資料等 30点

作業期間：平成28年3月1日（火）～3月7日（月）

場所：2階小展示室にテントを設営して実施

委託先：イカリ消毒（株）

2015  
「花毛氈」、「鍋島緞通」と  
よばれる木綿の敷物について

佐  
賀  
大  
学  
美  
術  
館  
  
紀  
要

# 「花毛氈」、**「鍋島段通」**とよばれる木綿の敷物について

——歴史解明のための段階的調査記録——

## 宮原(上田) 香苗

元 佐賀県立博物館・美術館 / 佐賀大学美術館 学芸員

佐賀に生まれ育ったわたしは祖母の言葉から、「だんつう」が敷物や絨毯を意味する事は漠然と知っていた。しかし、佐賀県立博物館の前任者から「これが鍋島段通です」と引継いだ時点では五里霧中、完全な手探り状態だった。参考書は昭和52年(1977)佐賀県立博物館で開催された「鍋島更紗・段通展」の図録のみ、当時は印刷部数も少なかった図録が偶然手元にあったのは、布類、とりわけ更紗に興味があり展覧会に行き入手していたためである。

まず、同展図録から段通に関する事項を抜粋した簡略な年表が、段通探索の第一歩となった。

### 更紗・段通年表

年代	事項	典拠
1699 (元禄12)	鍋島段通創始者古賀清右衛門死去	苗運寺過去帳
	}	
1870 (明治03)	大島貞七ほか数名で段通工場をつくる	「明治39年 佐賀縣案内」
1873 (明治06)	ウイーンの世界万国博に鍋島段通出品	
1884 (明治17)	嘉瀬町扇町苗運寺に段通碑建立	苗運寺段通碑
1889 (明治22)	嘉瀬町扇町若宮社に段通奉納	若宮社「段通」
1892 (明治25)	シカゴ・コロブス博覧会に段通出品	(追記)
1910 (明治43)	ロンドンにおける日英博覧会に鍋島段通出品	
1918 (大正07)	原田義太郎段通製織を始める	
1920 (大正09)	吉島正敏段通製織を始める	
1925 (大正14)	大牟田での共進会に鍋島段通を出品	
1925 (大正14)	鍋島段通を皇室並びに七宮家に献上	
1929 (昭和04)	鍋島段通を東京・大阪方面に宣伝販売	
1931 (昭和06)	原田満雄は鍋島段通の機械織機を発明、新案特許(188443号)	
1956 (昭和29)	吉島段通、久留米で段通製織を始める	

ここでは「段通」と表記されている。

同年表「事項」欄に記された年代と事項を分け、「典拠」欄を追加した。

段通に関連してここで登場する人物は、古賀清右衛門、大島貞七、原田義太郎と原田満雄、吉島正敏の五人。うち鍋島段通の創始者とされる古賀清右衛門(元禄12年死去、没時年齢不詳)については、明治17年建立の苗運寺(佐賀市嘉瀬町扇町)段通碑と苗運寺過去帳を基準資料としている。

その後、三好不二雄編『佐嘉城下町竈帳』(九州大学出版会、1990)が刊行される。鍋島文庫(公益財団法人鍋島報効会蔵/佐賀県立図書館寄託)に残る幕末の佐賀城下の戸籍台帳を活字化し解説したもので、このうち「天祐寺町竈帳 嘉永七年寅三月」(1854)には、「御用毛氈師」大川内源七、松尾平作、同じく「御用毛氈師」ではあるが町人次兵衛(扇町村苗運寺)、さらに「毛氈方手伝」に宇田慶四郎(扇町村苗運寺)の四名の名前が出てくる。

つまり、幕末の鍋島藩には「毛氈方」という部署と「御用毛氈師」という役職があったことが、この史料で初めて確認された。しかし、天祐寺町(現在の佐賀市六座町)佐賀城下内に限っての調査であるため、城外である扇町村での毛氈(段通)織りの実態は不明である。だが、扇町村苗運寺の門徒が二名おり、古賀清右衛門の時代から伝わる織りの技法が毛氈師の手で守り伝えられてきたことは間違いない。

ちなみに、嘉永七年当時27歳の原田内源七は、50歳で明治10年(1877)の「内国勸業博覧会(第1回)」に「段通織氈」を出品し「花紋」を受賞している。公式記録には「大河内彌七」。

では、緞通の歴史を語る唯一の資料「段通碑」原文を、「緞通碑拓本」（佐賀県立美術館資料）をもとに紹介する。明治17年の180年前に没した古賀清右衛門、彼の興した扇町紋氈は元禄年間（1688～1704）あるいは遡って貞享年間（1684～88）を草創期と考えてよいだろう。

扇町紋氈之名于世也久矣而製之者蓋自古賀清右衛門始云清右衛門佐賀扇町人家世事農其耕僅有嘗漂至外國者自言習織氈清右衛門試使織之美乃親學而盡得其方清右衛門復授之十有二家織之國主鍋島侯聞而嘉之各賜廩米若干以為世業然禁民間賣買以故世未多有焉明治以後賣買漸行遂大見貴重于世人爭購之工人殆不能給其需扇町紋氈之名於是乎益著矣而清右衛門之事世莫有知者也清右衛門元禄十二年死後百八十年明治十七年六月佐賀縣令鎌田君追嘉其興產之功特賜金若干以旌之清右衛門子孫既絕扇町工人相謀欲紀其功傳其榮于後余為叙之如此云

佐賀家永恭種撰  
主幹 山田伊八（左側面）



緞通碑拓本（画像提供：佐賀県立美術館）

漢文のためであろうか、文字の読み違いや解釈の違いなどで諸説あり、直裁に中国の緞通技法を学んだとする文章もある。中国語の「毯子（たんつ）」から木綿の敷物「段通（緞通）」へと商品化する中で、源流を求め価値を高めたいとの意識がはたらくのであろう。

「主幹 山田伊八」は、「製造人 肥前国佐賀郡扇町住士族 山田伊八」として「一 緞通 六畳敷」、「一 同 貳畳敷」を「明治十四年 第二回内国勸業博覧会」に登場した。ただし、出品代表者は「佐賀郡北堀端（佐賀郡赤松村） 厚生会社」であることが、その後の調査で判明した。

当初、佐賀県立博物館所蔵の鍋島緞通は、「鍋島更紗・緞通展」（昭和52年）後に収集された以下の14点であった。

資料名	数量	年代	法量 (cm)	形状など
鍋島緞通 唐草芍薬文	1	明治初期	365.5 × 94.5	二畳物・片房
鍋島緞通 兜牡丹文	1	明治前期	184.0 × 93.5	一畳物・片房
鍋島緞通 花杏葉文	1	明治中期～後期	195.0 × 92.0	一畳物・片房
鍋島緞通 蟹牡丹文	1	明治前期～中期	192.0 × 93.0	一畳物・片房
鍋島緞通 蟹牡丹文	1	明治中期～後期	188.5 × 94.0	一畳物・片房
鍋島緞通 蟹牡丹唐草文	1	江戸末期～明治 ◆	191.0 × 91.0	一畳物・片房
鍋島緞通 花杏葉文	1	明治中期～後期	361.0 × 94.0	二畳物・片房
鍋島緞通 芍薬に唐花文	1	明治時代	190.0 × 93.0	一畳物・片房
鍋島緞通 蟹牡丹唐草文	1	大正時代	182.0 × 95.5	一畳物・片房
鍋島緞通 亀甲に蝶花文	1	大正時代	183.0 × 95.0	一畳物・片房
鍋島緞通 蝶に七宝樹文	1	大正時代	187.0 × 97.0	一畳物・片房
鍋島緞通 蟹牡丹雲形文	1	1937（昭和12,13）年頃	246.0 × 241.0	三畳半物・両房
鍋島緞通 蟹牡丹蝶文	1	大正～昭和前期	275.0 × 271.0	四畳半物・片房
鍋島緞通 幾何熨斗文	1	1940（昭和15,16）年頃	272.0 × 265.0	四畳半物・片房

平成4（1992）年佐賀県立美術館で開催した「鍋島緞通～もめんの華～」展出品の際に、名称をある程度整理し、年代も入手時の記録を基に確認作業をおこなった。しかし、現時点で判断すると、上記表で「江戸末期～明治 ◆」と印をつけた「鍋島緞通 蟹牡丹唐草文」は、紡績糸で織られているため明治時代であろう。基準となるはずの江戸時代の製品はここにはなかった。

興味深いことに14枚中2枚が「廊下敷」といわれる二畳物（基本型の一畳文様を縦に続けて織る、二畳半の長尺物も確認）、3枚が室内に

敷きつめる方形の絨毯スタイル（三畳物、四畳半物）の注作品であったことだ。年代を「1937（昭和12,13）年頃」、「1940（昭和15,16）年頃」とした2点は、備考欄に「吉島製」と記され、これも旧所蔵家の注文で織られている。ただし前者は経糸緯糸とも太いが、後者は絨毯のように緻密な織りで経糸緯糸ともに細い。

基本となる一畳物緞通の寸法も大小あり、経糸緯糸の太さ、文様の色糸（織込み糸、結び糸）の長さのちがひ、後日判明した一畳物の重量の軽重が時代により異なること、文様から時代を推定できることなどは段階的に整理をしていったが、この時点で14点の緞通から得られる情報は少なかった。

以上「年表」、「段通碑」、「鍋島緞通（14点）」を起点に、年表の基となる典拠確認の調査を始めた。昭和45年開館の佐賀県立博物館には近代の古書類があり、佐賀県立図書館郷土室の経済・産業・商工関係の棚にも緞通に関する記録が散見された。大正時代の冊子には緞通四枚の写真が掲載されており、博物館所蔵の資料と照合ができた。前記一覧の「大正時代」とした緞通三枚である。その後、明治26年発足の「厚生舎」（前出の「厚生会社」が組織替え）に残された緞通図案（「もめんの華」展会期中に寄贈）と照合した結果、「明治後期から大正時代」の製品ではないかと推測するに至る。

明治6年開催のウィーン万国博覧会、明治43年の日英博覧会など万国博覧会の報告書、内国勸業博覧会や農商務省主催の共進会、その地方版九州沖繩八県連合共進会についての文字情報の収集は、世界規模、全国規模のものは国立国会図書館と東京文化財研究所、鍋島緞通の販売先として話題に上る関西方面では京都府立総合資料館、大阪府立図書館（現在の大阪府立中之島図書館）、九州では福岡県立図書館ほかを渉猟した。現在のようにインターネットであらかじめ書籍を検索し、当日閲覧希望図書の請求票を出力してとはいかず、膨大な図書カードの収められた引出しから始まり、図書請求票に記入し、実際に手元で内容を確認するまでは期待と不安がつづのる。こうした調査の醍醐味は、デジタル・アーカイブ上で閲覧可能な資料類が増え、ダウンロードも印刷も可能な時代になると、わずかに二、三行の記述発見に一喜一憂の感動はもはや過去形である。コピーにも時間がかかり、「緞通関係」の10行にもみえない箇所は手書きで処理という時代だった。この頃の調査報告は、「鍋島緞通-もめんの華-」図録末尾の資料編に一部をまとめた。

調査の第二段階は、緞通展の準備中に出版された角山幸洋著『堺緞通-中国緞通技術の受容と輸出地場産業の成立-』（平成4年3月31日発行）が契機となり、新たな目標が定まった。

堺緞通の歴史は、天保2年（1831）堺の糸物商藤本庄左衛門のもとで、相良緞通（鍋島緞通を意味する関西地域での通称。）と中国緞通をもとに考案されて始まる。早世した二代目の跡を継いだ孫藤本荘太郎の活躍により、明治10年（1877）には「堺段通商組合」が誕生するまでの一大産業に成長した。鍋島緞通に倣い木綿製をもとにして始まるが、明治時代に輸出品として増産が始まるとともに素材は麻製や羊毛製など多種となり、製品の規格も一畳サイズ（180×90cm）から注文に応じて大形化していった。（論考および「六、堺緞通関係年表」を参照）

興味をそそられ、刺激を受けたのは「付載」として明治21年（1888）から大正9年（1920）までの「一、大阪府下緞通製造所（工場）」のあらましを、『大阪府統計書』（大阪府）および『工場通覧』（農商務省商工局工務課編纂）から丹念にひろいあげてまとめた一覧である。

ここには製造所名と所在地および創業年月、職工数（男、女）と多様な品種の緞通（段通）、麻段通（明治27年以降）、毛段通と羊毛段通（明治35年以降）がある。本来綿緞通から始まったことから緞通（段通）は綿緞通を意味し、素材が増えたため明治36年に初めて「麻・綿」、「綿段通」の表記が加わっている。さらに大正5年「各種緞通」（小西緞通製造工場）、大正6年「絹・毛糸・麻緞通」（中尾緞通工場）、大正7年「両面緞通」（山田織物工場）、一覧表の末尾大正9年には「綿絨氈、毛絨氈及綿緞通、絨緞通（絨は麻の誤記か）」（合資会社住吉織物工場）と多彩である。

それではと着手したのは佐賀県関係の「統計書」に記録されたデータである。わずかに数行の情報を整理すると、明治時代以降の鍋島緞通の生産状況が明らかになった。国立国会図書館資料『佐賀県勸業年報』で明治23～38年までを、『佐賀県統計書』で明治37～昭和27年版を佐賀県立図書館郷土室および佐賀県統計課資料室（現在は佐賀県公文書館）で調べた。欠落部分は『佐賀市統計年報』（昭和8～17年；佐賀市役所）、『佐賀市勢要覧』（昭和8年版、13年版；佐賀市役所）を加えて、鍋島緞通の生産高や職工数を拾いだしてまとめた。疑問点を付記した一覧は、佐賀県立博物館・美術館の『調査研究書〔第18集〕「鍋島緞通資料編（追補1）-明治以降の佐賀県および佐賀市の「勸業・産業」統計資料を中心に-」で報告している。以下は、明治20～30年代（表4）と明治30年代以降（表1）の2表をまとめた一覧である。

鍋島緞通の生産高：『佐賀縣勸業年報』による 明治23年（1890）から明治38年（1905）まで（表4）

鍋島緞通の生産高：『佐賀縣統計書』による 明治37年（1904）12月末日から昭和16年（1941）まで（表1）

年	物産	機業 製造 戸数	機手 台織 数機	職工數			産 額		単 一 価 量 當
				男	女	計	數量	価額	
明治23	1890								
明治24	1891								
明治25	1892	緞通					29 坪	377 円	13.0 円
明治26	1893	緞通					12 坪	156 円	13.0 円
明治27	1894								
明治28	1895	緞通					45 坪	675 円	15.0 円
明治29	1896	緞通					45 坪	742.500 厘	16.500 厘
明治30	1897								
明治31	1898								
明治32	1899								
明治33	1900	緞通					45 坪	607 円	13.500 厘
明治34	1901								
明治35	1902	緞通					64 本	1,280 円	20.000 厘
明治36	1903	緞通					65 本	1,300 円	20.000 厘
明治37	1904	緞通	1 戸	5	5	5	100 畳	1,000 円	10.0 円
明治38	1905	綿緞通	1 戸	5	5	5	120 畳	1,320 円	11.0 円
明治39	1906		1 戸	20	20	20	240 畳	2,400 円	10.0 円
明治40	1907		1 戸	10	13	13	120 畳	1,380 円	11.50 銭
明治41	1908		1 戸	6	8	8	125 畳	1,663 円	13.304 厘
明治42	1909		1 戸	30	36	36	60 畳	780 円	13.0 円
明治43	1910		1 戸	15	18	18	180 畳	1,980 円	11.0 円
明治44	1911		1 戸		-	-	480 畳	6,000 円	12.50 銭
大正01	1912		1 戸		-	-	236 畳	3,304 円	14.0 円
大正02	1913		1 戸		-	-	250 畳	3,750 円	15.0 円
大正03	1914		1 戸	3	3	3	37 畳	518 円	14.0 円
大正04	1915		1 戸	3	6	6	82 畳	1,066 円	13.0 円
大正05	1916		1 戸	6	7	7	85 畳	1,275 円	15.0 円
大正06	1917		1 戸	8	10	10	230 畳	4,600 円	20.0 円
大正07	1918		1 戸	8	10	10	292 畳	6,424 円	22.0 円
大正08	1919		1 戸	7	7	7	200 畳	5,000 円	25.0 円
大正09	1920		2 戸	8	7	1	500 畳	10,000 円	20.0 円
大正10	1921		2 戸	20	7	10	380 畳	9,500 円	25.0 円
大正11	1922		2 戸	20	15	6	363 畳	7,260 円	20.0 円
大正12	1923		2 戸	15	7	4	200 畳	4,400 円	22.0 円
大正13	1924		1 戸	3	7	-	150 畳	4,200 円	28.0 円
大正14	1925		1 戸	4	5	-	20 畳	300 円	15.0 円
昭和01	1926						340 畳	5,576 円	16.40 銭
昭和02	1927						100 畳	2,000 円	20.0 円
昭和03	1928						250 畳	6,250 円	25.0 円
昭和04	1929						180 畳	3,600 円	20.0 円
昭和05	1930		2 戸	8		8	180 碼	3,600 円	20.0 円
昭和06	1931		2 戸	8		8	120 碼	1,800 円	15.0 円
昭和07	1932		2 戸	8		8	89 畳	1,602 円	18.0 円
昭和08	1933						91 畳	2,550 円	28.02 銭
昭和09	1934		2 戸			5	360 畳	7,200 円	20.0 円
昭和10	1935		2 戸				276 畳	5,520 円	20.0 円
昭和11	1936						300 畳	6,000 円	20.0 円
昭和12	1937						336 畳	7,104 円	21.14 銭
昭和13	1938						209 畳	4,458 円	21.33 銭
昭和14	1939						211 畳	8,800 円	41.70 銭
昭和15	1940						1,220 畳	74,000 円	60.65 銭
昭和16	1941						- 畳	- 円	- 円

※ 産額欄の単位「坪（二畳物か）」、「本」、「畳」、「碼（ヤード）」と価額の単位「円」、「銭」、「厘」は原本どおり。「坪」の面積は畳二畳分と推測、「本」は単価が高いため二畳物廊下敷ではないか。「碼（ヤード）」は3尺1分72=約10尺だが、前後の単価を比較すると一畳物であろう。

ここで「操業戸数/製造戸数 1戸」とあるのは、製造流通販売を手がける商社の厚生舎、後に会社組織となり厚生会社のことで、明治から大正前期にかけてはこの一社のみが鍋島緞通を取り扱ったと考えられる。これは国内外の博覧会関係資料でも裏付けられる。その後、前出の年表にある「原田義太郎(大正7年創業)」と「吉島正敏(大正9年創業)」が登場して、大正9年(1920)に始めて製造戸数が2戸となったことに納得がいく。

また、藩政下の組織にある「毛氈師」が男性の仕事であったことは前述したが、「職工数」欄を男女別にした明治37～大正14年の一覧から、女性の職工1名が記録上登場したのは大正9年が初めてであったこともわかる。

明治34年10月1日付佐賀新聞の記事「佐賀緞通製造開始」の文中に「佐賀緞通製造所(佐賀緞通所)」では「伝習生は男女を問わず」とあり、この後指導を受けて女性職工が育ったと考えるのだが、いくら藩政時代から続く伝統の技法とはいえ20年余かかって一人前とは、この点には多少疑問が残る。

調査の第三段階は、「鍋島緞通の文化財指定の是非」が佐賀県文化財審議会第二部会の数年来の検討事項、すなわち現在佐賀市内にある織元が「江戸時代から連続して製作技法が伝達されている」という要件を満たしているかどうかという調査に端を発したものであった。

「全国的視野で緞通を見る」には、明治後期から盛んになる古美術市場を展望できる「売立目録」に緞通を探してみてもどうかとのご指摘を受けたこと、実際に、東京在住の古美術商某氏から、ご所蔵の売立目録掲載の鍋島緞通の複写資料をたびたび提供していただいたことから、平成23年3月末に独立行政法人東京文化財研究所の所蔵する売立目録(総数2,524件/最終更新日2013年1月22日)をターゲットに挑戦を開始した。

「鍋島緞通」、「佐賀緞通」、「佐賀敷物」の名称があり、中にはモノクロながら画像も散見された。およそ半分の1,367冊を調査した後にもまとめたのが「売立目録にみる鍋島緞通」、「財団法人鍋島報効会研究助成研究報告書第6号」(平成6年1月発行、現公益財団法人鍋島報効会)の中間報告である。

まず驚いたのは、地元佐賀では見たことのない文様の「鍋島緞通」が多数出現したことである。当地では馴染みの「蟹牡丹文」緞通が少ない、鍋島緞通とはにわかには断定し難い複雑な縁文や地文を織り込み技巧を凝らしている。江戸後期(19世紀)の献上品・贈答品であったと思われる「花毛氈」には、それは贈答先の格式を反映させて意匠を考案した結果ではないかと考える。

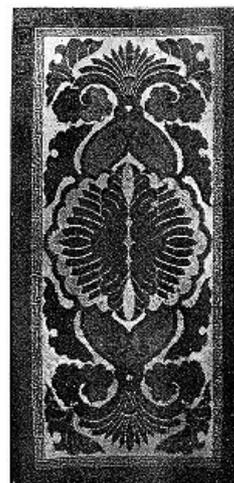
実例としては、「徳川侯爵家御藏品入札<外題;水戸家藏品>」の「鍋島敷物 六枚」(大正7年か/美研-0549)と「子爵松平家御藏品入札目録」の「鍋島蟹牡丹緞通 五枚」(大正14年/美研-0975)のデザインがある。この調査で初めて発見し、他では類例がない。基本的な文様「蟹牡丹文」から発展したもので、中央部に特徴があり、全体的にはよく似ているが、細部に変化を加えている。また、目録の通例は「緞通一枚」とあるが、ここでは「六枚」、「五枚」と記しているのにも注目したい。



古渡鍋島蟹牡丹七枚揃綿段通  
鍋島 京刺繍を海外輸出した田中利七の旧藏品  
当市下京田中利七氏及某旧家所藏品入札  
(明45) 06-17 京都美術倶楽部 美研-0168



古渡鍋島牡丹模様綿緞通 四枚  
鍋島 染織文化の栄えた京都に伝わる精緻な文様  
当市元両替町(近新)中村氏所藏品入札  
大06-03-22 京都美術倶楽部 美研-0409



鍋島敷物 六枚  
鍋島 徳川侯爵家(水戸家)に伝世した鍋島緞通  
徳川侯爵家御藏品入札<外題:水戸家藏品>  
(大07) 10-21 東京美術倶楽部 美研-0549

東京文化財研究所の調査数は現時点で2,105冊（2016/3/25現在）を確認、それ以外の図書館へもネット検索をフル活用して「売立目録」の調査を拡大している。以下の表はその一部である。

資料名	点数	入札会名	入札年月日	会場名	所在
鍋島蟹牡丹緞通 二枚	2	筑紫武内圓庵播州片島竹香両家藏品入札目録	昭04-01-30	大阪美術倶楽部	京都府立総合資料館
唐物綿緞通 二枚	2				
赤尾（赤穂）緞通	10	駿河港大和田弥右衛門藏品入札目録	昭09-06-26	金澤美術倶楽部	福岡県立図書館
蟹牡丹綿緞通 三枚	3	目録 岸和田市本町_金納家所藏品売立	昭07-03-15	岸和田市光明寺	大阪府立中之島図書館
赤穂緞通 数々	1	百活園愛蔵品展覧入札目録：大分市（安岡家）	昭10-11-24	共楽亭（大分）	九州大学文学部合同図書館
支那緞通 数々	1				
鍋島緞通 数々	1				
佐賀緞通 二疊 一枚	1	当市石川翁並某家所藏品	(昭和)-12-15	奉公館（元常盤館/福岡）	
鍋島段通 六枚	6	佐賀市北島徳市氏御所藏品入札	大13-02-25	常盤館（福岡）	
緞通 三枚	3	當市松尾家所藏品入札	昭09-05-28	呉服商倶楽部（福岡）	
緞通 一疊敷	1	山口縣當市某兩家所藏品入札	昭11-11-15	門垣靜觀堂（小倉）	
緞通 二疊敷	1				
大緞通	1				
佐賀長糸緞通一疊織 八枚	8	伊丹家舊藏品市内某家所藏品入札	昭12-05-10	呉服商倶楽部（福岡）	
鍋島十二支畫段通	1	當市某兩家所藏品入札	昭07-11-25	門垣靜觀堂（小倉）	

岸和田市で開催された売立に「蟹牡丹綿緞通三枚」を発見し、徴古館で疑問をなげかけたところ、鍋島家のご親族がおられたことが解った。また、九州大学文学部合同図書館には大分市、旧小倉市、福岡市など九州で主催された入札会の資料が多数保管されていた。「緞通」のみの表記は一部を省略したが、九州内の市ではとくに「支那」や「中国」と記さないときはおおむね「鍋島」を意味しているようだ。「佐賀緞通」や「佐賀長糸緞通」と書いたものもある。「鍋島十二支畫段通」は掲載図版から、中国産だろうか。幕末の有田焼染付十二支文大皿を連想して、期待したのだが。

以上のように、鍋島緞通の歴史は、明治時代の一部が明らかになってきたが、まだ点と点をつないでいく途中である。

古文書を読み解き、江戸時代の「花毛氈」の歴史をたどるのは次世代の「鍋島緞通」研究者にゆだねることにして、わたしの次なる目標は地元佐賀新聞の明治・大正・昭和前期の産業・経済欄から「緞通」や「敷物」の動向をたどってみることだ。

これは、調査したメモ資料を整理しようとした試み、佐賀県立博物館・美術館『調査研究書〔第20集〕』『鍋島緞通資料編（追補2）-明治以降の史誌類および産業と工芸関係の活字資料を中心に-』をまとめる時に必要性を実感したためである。実際に明治20年4月21日付「佐賀新聞」の記事「佐賀縣産額表」には、前出の『佐賀縣勸業年報』、『佐賀縣統計書』ではたどれなかった明治17～19年の敷物（鍋島緞通）の年間生産枚数が県産業課調として掲載されていた。

この試論のスタートラインとなった、「鍋島緞通-もめんの華-」図録と佐賀県立博物館・美術館「調査研究書」（2冊）の内容を再確認しながら、これからもパズルのピースを探していこうと思う。





佐賀大学美術館

**平成27年度**

年報＋紀要



2017年3月24日発行

発行 佐賀大学美術館 ©2017

佐賀市本庄町1番地

企画・編集 佐々木奈美子+鬼塚美津子+大坪由季 (佐賀大学美術館)

編集協力 西村彰+今村真由美 (佐賀大学美術館)

印刷 株式会社 昭和堂

※本書の仕様は、「平成25年度年報+紀要」(デザイン:佐賀大学文化教育学部 荒木博申教授)を踏襲した。

佐賀大学美術館



THE SAGA UNIVERSITY ART MUSEUM